

雲南圏域

在宅医療・介護に関する住民アンケート調査結果

平成 29 年 1 月

島根県雲南保健所

I	調査概要	3
1	調査目的	3
2	調査地域	3
3	調査対象	3
4	対象者抽出数	3
5	抽出方法	3
6	調査方法	3
7	調査期間	3
8	回答結果	3
II	調査結果（全県調査項目）	4
1	基礎情報	4
問1	性別	4
問2	年齢	4
問3	市町村（現在の居所）	4
問4	家族構成	5
問5	健康・医療に関する情報入手先	6
2	在宅医療・介護について	7
問6	自宅で療養を継続できる体制	7
問7	自身が在宅医療を受けるかどうかの判断材料	8
問8	家族が在宅医療を受けるかどうかの判断材料	9
問9	在宅医療推進に必要と思うもの	10
問10	在宅医療に関して取り上げて欲しいテーマ	11
3	終末期医療について	12
問11	人生の最期が迫っていることの告知	12
問12	延命治療の希望	13
問13	事前要望書、リビング・ウィルなどの作成	14
III	調査結果（雲南圏追加項目）	15
1	あなたご自身について	15
問1	現在の居所（旧町村別）	15
問2	現在の居所	15
問3	受診の状況	16
2	在宅医療・介護について	17
問4	夜間・休日の緊急時の医療機関利用（連絡）先	17
問5	「緩和ケア」の認識度	18
問6	人生の最期が迫っている時の療養の場所	19
問7	医療・介護サービスの認識度	21
IV	自由意見	28
V	住民アンケート用紙	29

## I 調査概要

### 1 調査目的

住民の在宅医療・介護に対する意識や終末期の療養の希望を把握し、雲南圏域における地域包括ケアシステムの構築や在宅医療・介護連携の推進の方策検討等の基礎資料とする。

また、この調査を実施することで、在宅医療・介護に関する意識の醸成、啓発につなげる。

### 2 調査地域

雲南圏域の1市2町（雲南市、奥出雲町、飯南町）

### 3 調査対象

住民基本台帳に登録されている40歳以上90歳未満の住民

### 4 対象者抽出数

雲南市 2,115人 奥出雲町 745人 飯南町 294人  
雲南圏域合計 3,154人

### 5 抽出方法

無作為抽出

### 6 調査方法

郵送法（送付・回収とも）

### 7 調査期間

平成28年9月

### 8 回答結果

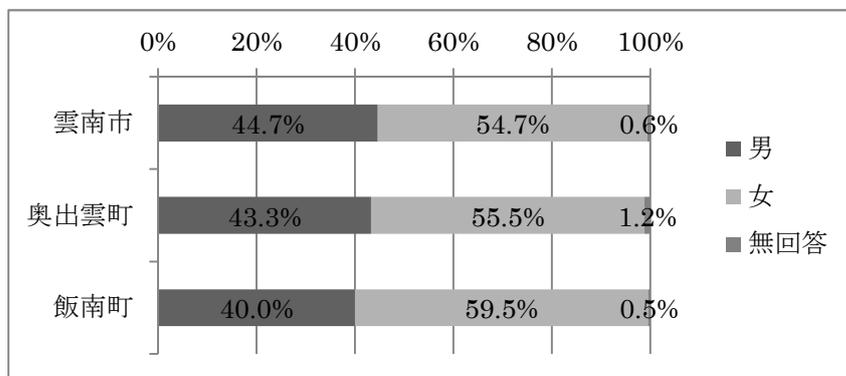
市町	配布数	回答数	回答率
雲南市	2,115	1,290	61.0%
奥出雲町	745	425	57.0%
飯南町	294	205	69.7%
不明	0	4	-
計	3,154	1,924	61.0%

## II 調査結果（全県調査項目）

### 1 基礎情報

#### 問1 性別

回答者の性別構成は次のとおりであり、女性の比率が高くなっている。



#### 問2 年齢

市町別年齢別の配布数及び回答数は次のとおりであり、配布数が多かった60歳代の回答数が多くなっている。回答率は60歳代、70歳代が高くなっている。



市町	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	無回答	計
雲南市	150	226	380	278	248	8	1,290
奥出雲町	40	67	129	100	84	5	425
飯南町	20	32	56	49	47	1	205
無回答	0	0	0	0	0	4	4
計	210	325	565	427	379	18	1,924
配布数	500	589	841	626	598	0	3,154
回答率	42.0%	55.2%	67.2%	68.2%	63.4%	-	61.0%

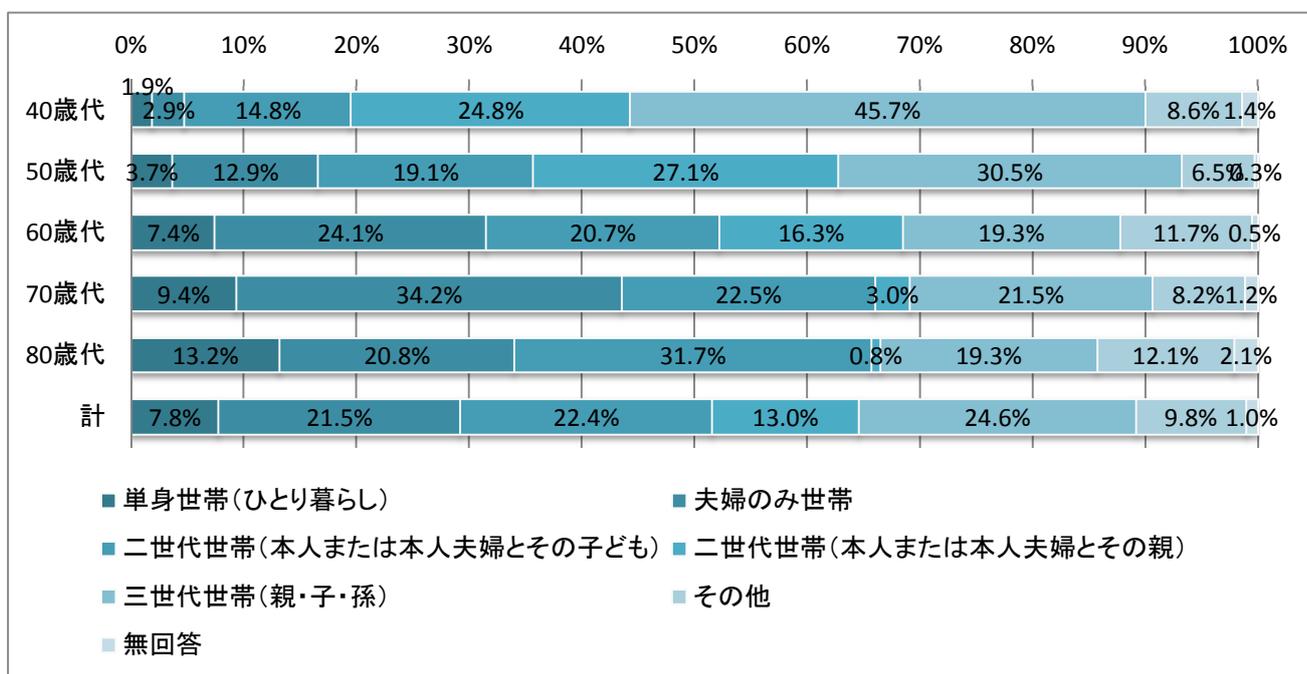
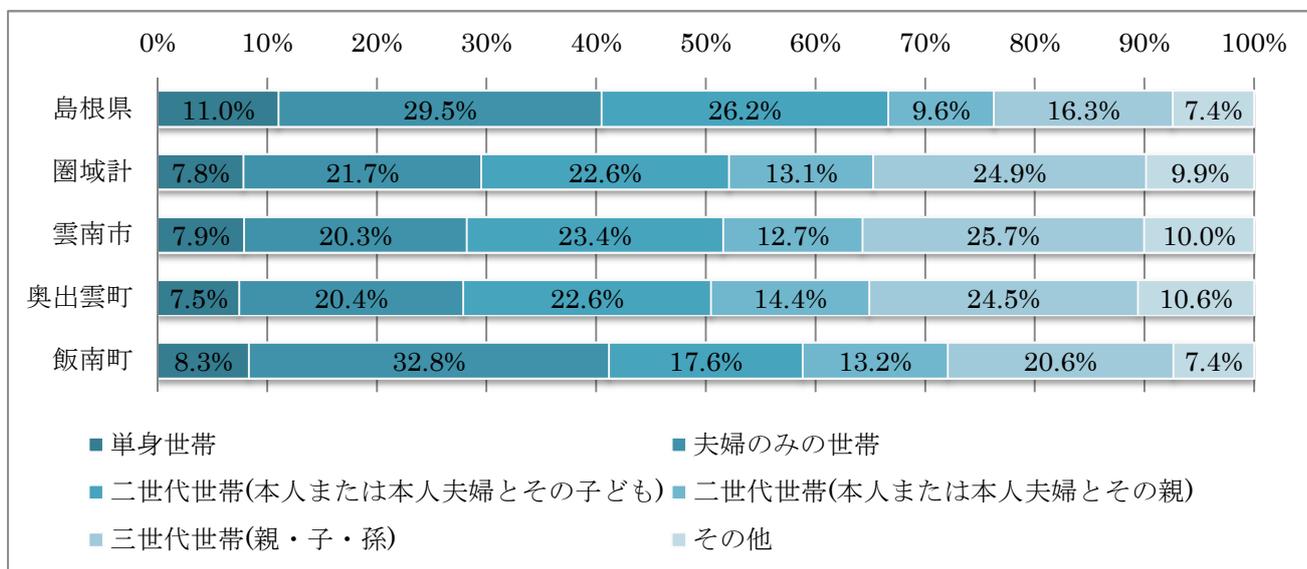
#### 問3 市町村（現在の居所）

上記問2のとおり。

#### 問4 家族構成

回答者の家族構成は次のとおりであり、雲南市及び奥出雲町では「三世代世帯(親・子・孫)」が多く、飯南町では、「夫婦のみ世帯」が多くなっている。

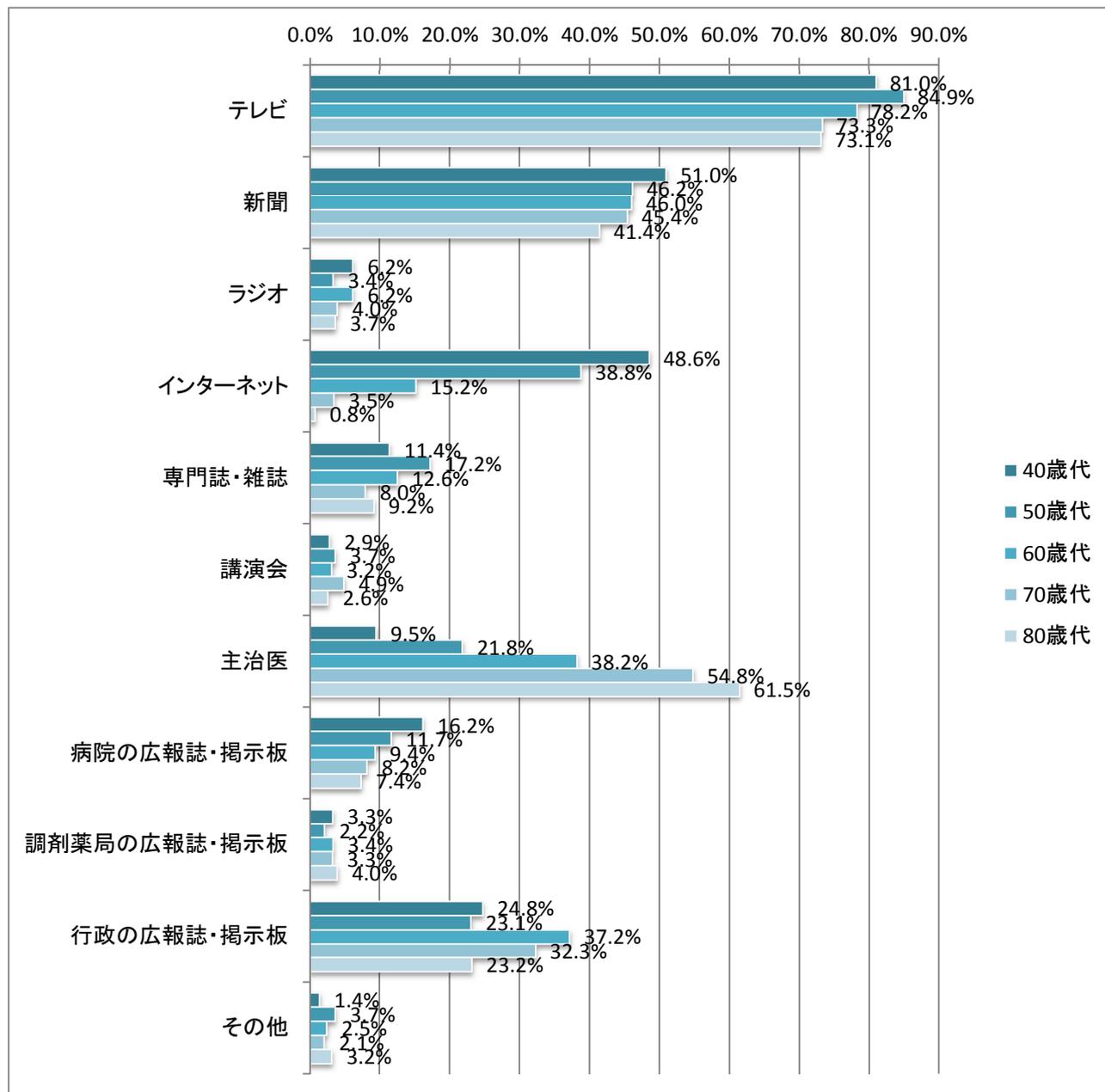
また、年代別で見ると60歳代から「単身世帯」が増えており、80歳代では13.2%が単身世帯となっている。



## 問5 健康・医療に関する情報入手先

問5 普段、あなたは健康・医療に関する知識や情報を主に何から得ていますか。(〇は3つまで)

健康・医療に関する知識や情報を得る先として、どの年代も「テレビ」との回答が最も多かった。40歳代、50歳代では次いで「新聞」、「インターネット」が多かったが60歳代では「新聞」、「主治医」が多く、70歳代、80歳代では「主治医」、「新聞」が多くなっている。



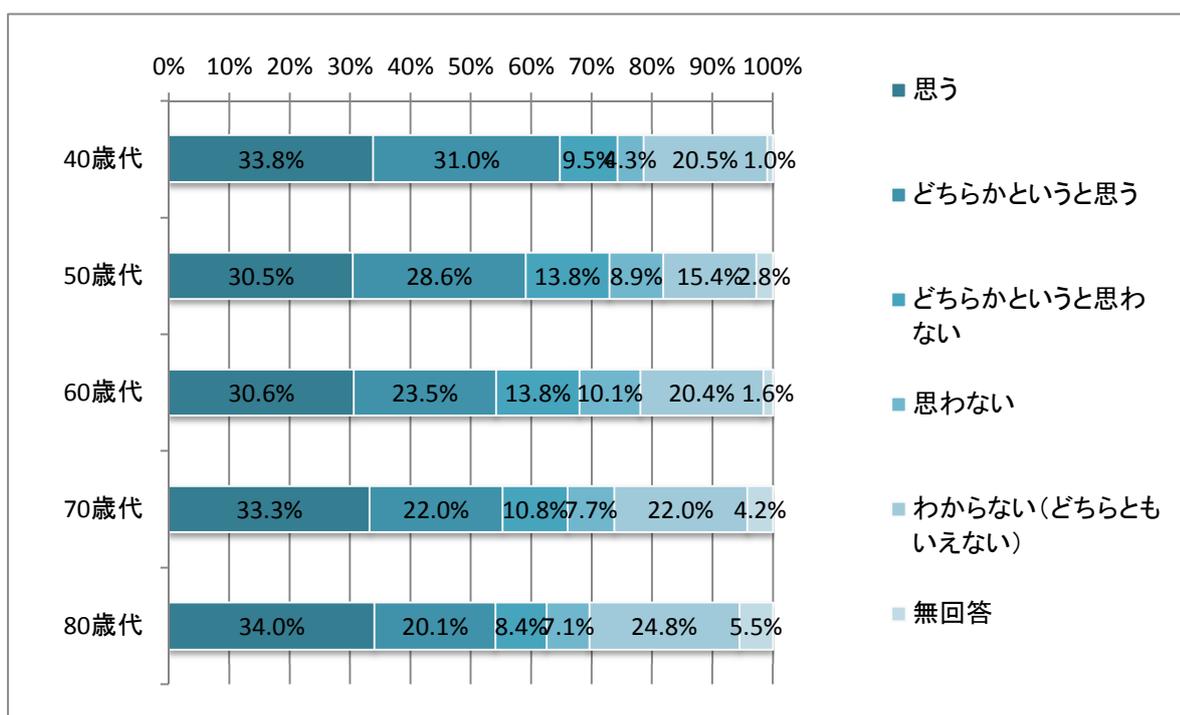
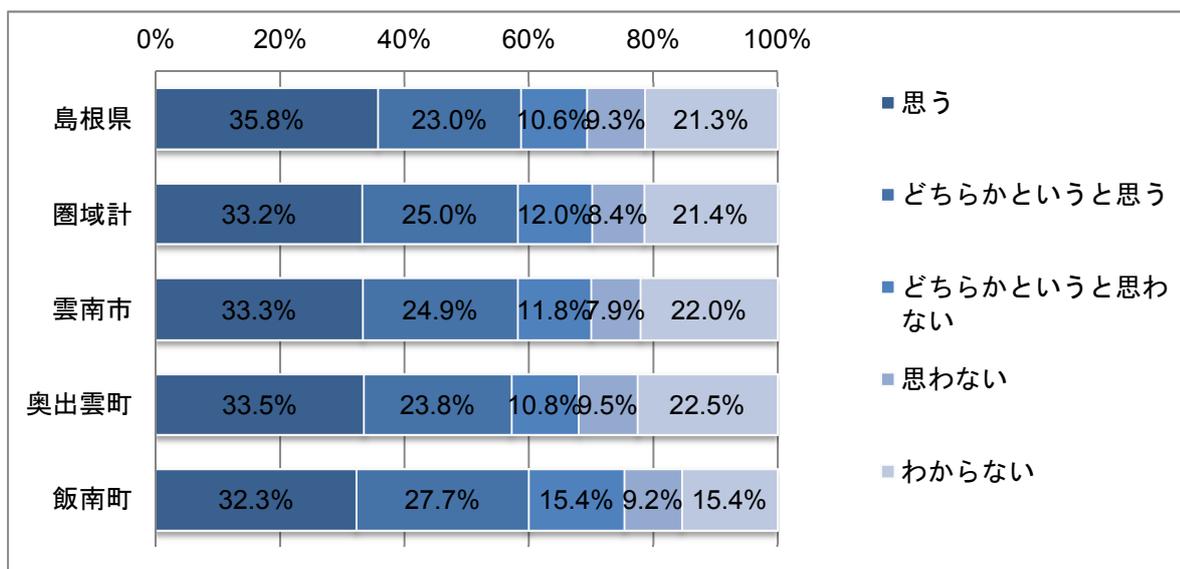
## 2 在宅医療・介護について

### 問6 自宅で療養を継続できる体制

問6 老衰、がん、脳卒中の後遺症等で長期の療養が必要になった場合、在宅医療を希望する人が、病院に入院せずに自宅で療養を継続できる体制を社会全体で作っていきべきと思いますか。(〇は1つ)

「思う」と回答した人が最も多く、圏域全体で33.2%となっており、「どちらかというと思う」と回答した人25.0%と合わせると58.2%となっている。一方、「どちらかというと思わない」、「思わない」と回答した人は20.4%となっている。

年代別では、40歳代50歳代で「思う」、「どちらかというと思う」と回答された割合が高い。

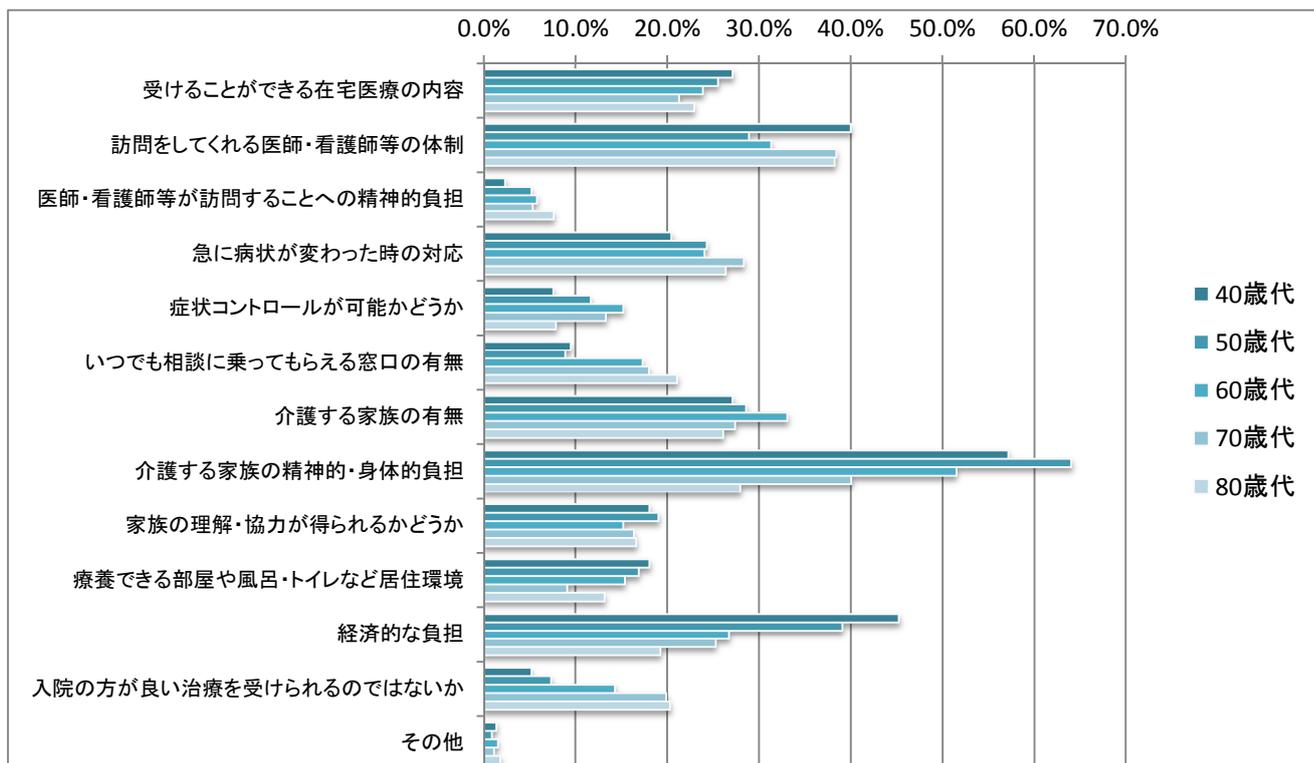
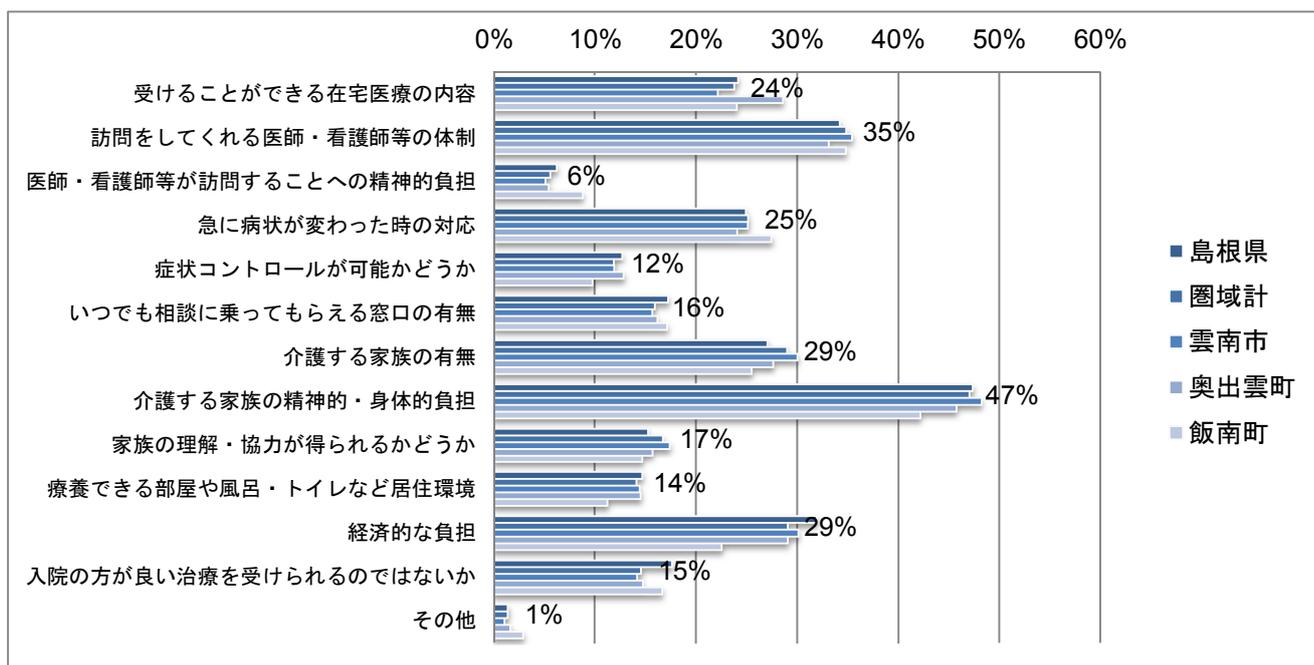


## 問7 自身が在宅医療を受けるかどうかの判断材料

問7 あなた自身が在宅医療を受けるかどうか悩んだ時、特にどのような事が判断の材料となると思いますか。(〇は3つまで)

回答者自身の在宅医療を受けるかどうかの判断材料として、「介護してくれる家族の精神的・身体的負担」との回答が最も多く圏域全体では47%となっている。次いで「訪問をしてもらえる医師・看護師等の体制」が35%となっている。

年代別では、40歳代から70歳代では「介護してくれる家族の精神的・身体的負担」との回答が最も多く、80歳代では「訪問をしてもらえる医師・看護師の体制」との回答が最も多くなっている。また、年代が上がるにつれ「入院と比較した治療の質への不安」が高くなっている。

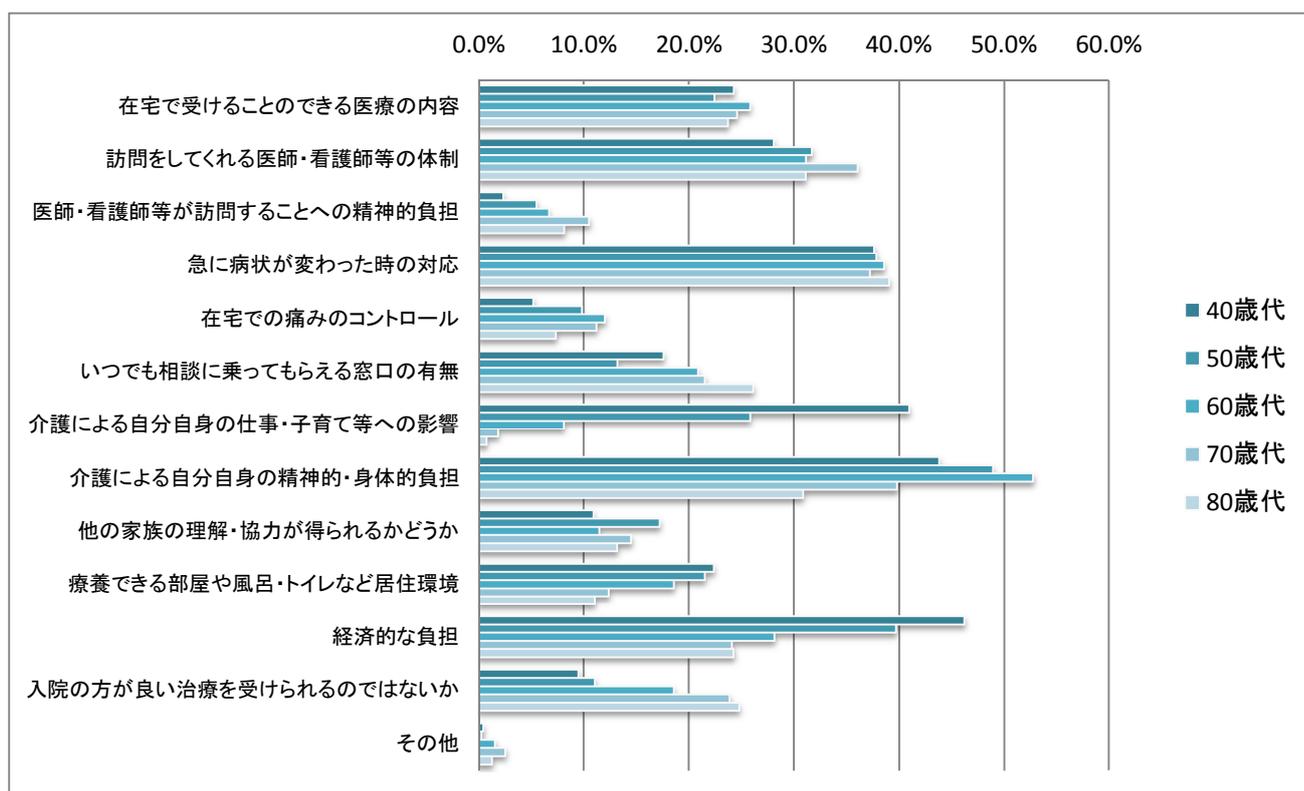
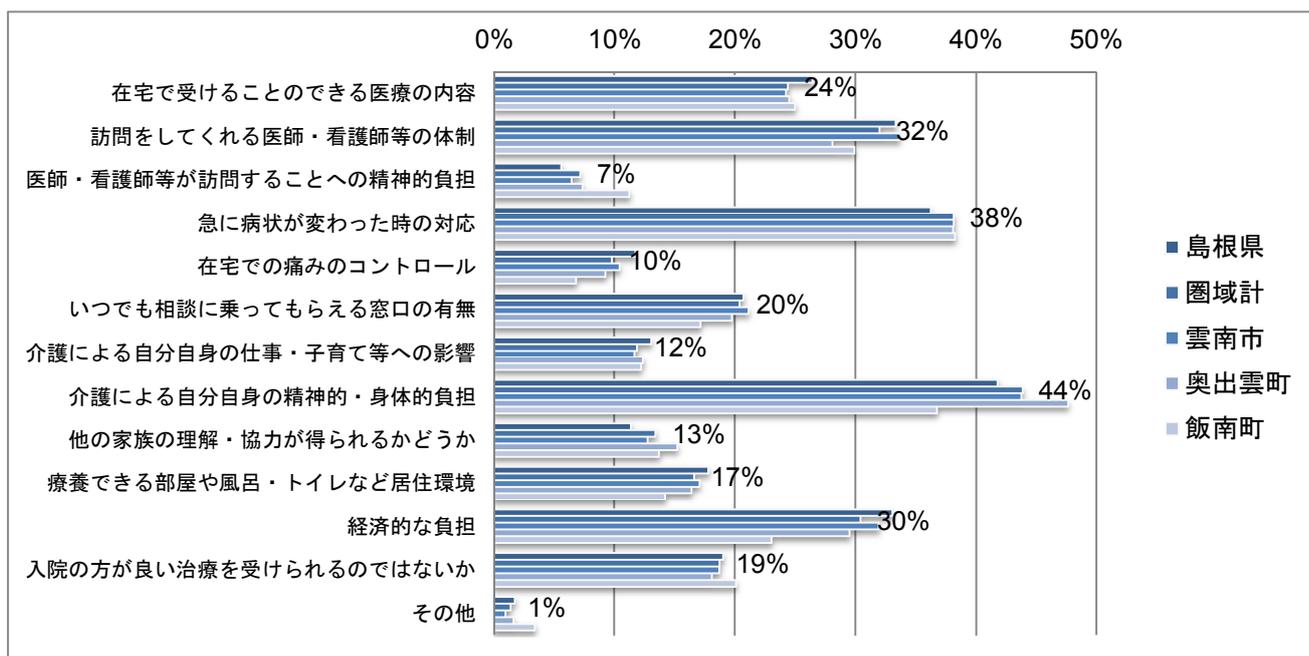


## 問8 家族が在宅医療を受けるかどうかの判断材料

問8 あなたの家族が在宅医療を受けることとなった場合、あなたが特に心配に思う事を以下から選択してください。(〇は3つまで)

回答者の家族が在宅医療を受けこととなった場合に回答者が心配に思う事として、「介護による自分自身の精神的・身体的負担」との回答が多く、圏域全体では44%となっている。次いで「急に病状が変わった時の対応」が38%となっている。

年代別では、40歳代は「経済的な負担」の回答が最も多く、「仕事・子育て等への影響」を心配する回答も多くなっている。

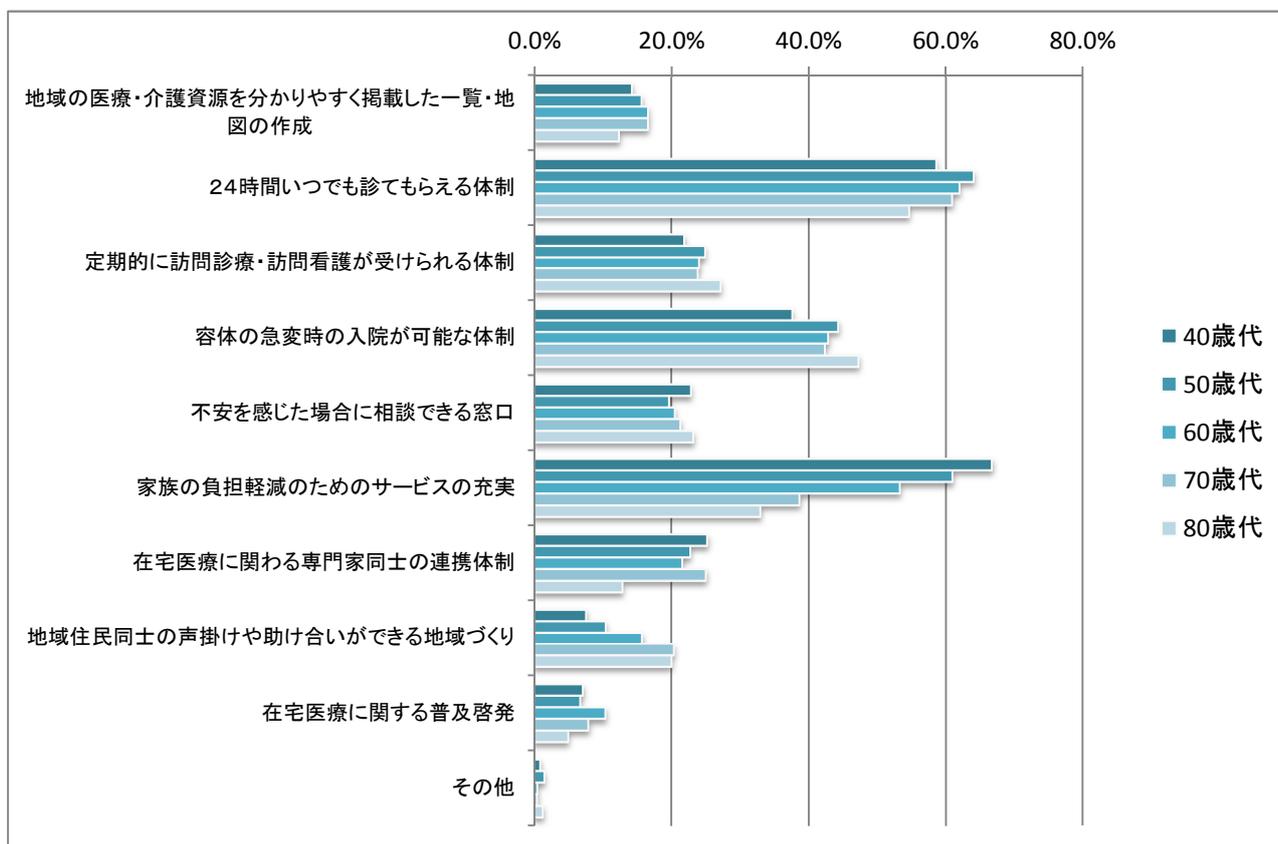
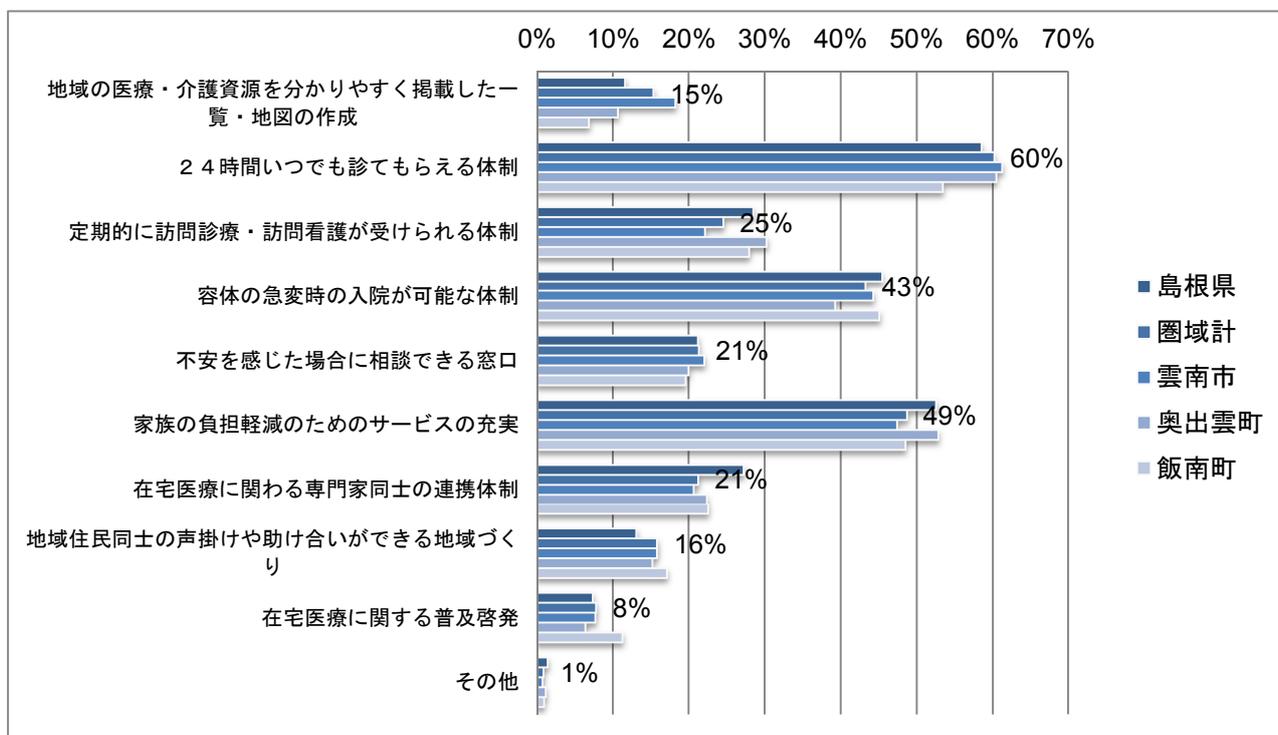


### 問9 在宅医療推進に必要と思うもの

問9 今後、あなたのお住いの市町村で、今以上に在宅医療を推進していく上で、特に必要と思うものは何ですか。(〇は3つまで)

回答者が在宅医療を推進していく上で、特に必要と思うものとして圏域全体では「24時間いつでも診てもらえる体制」が60%と最も多かった。

年代別では若い世代ほど「家族の負担軽減のためのサービスの充実」が必要と思っている。

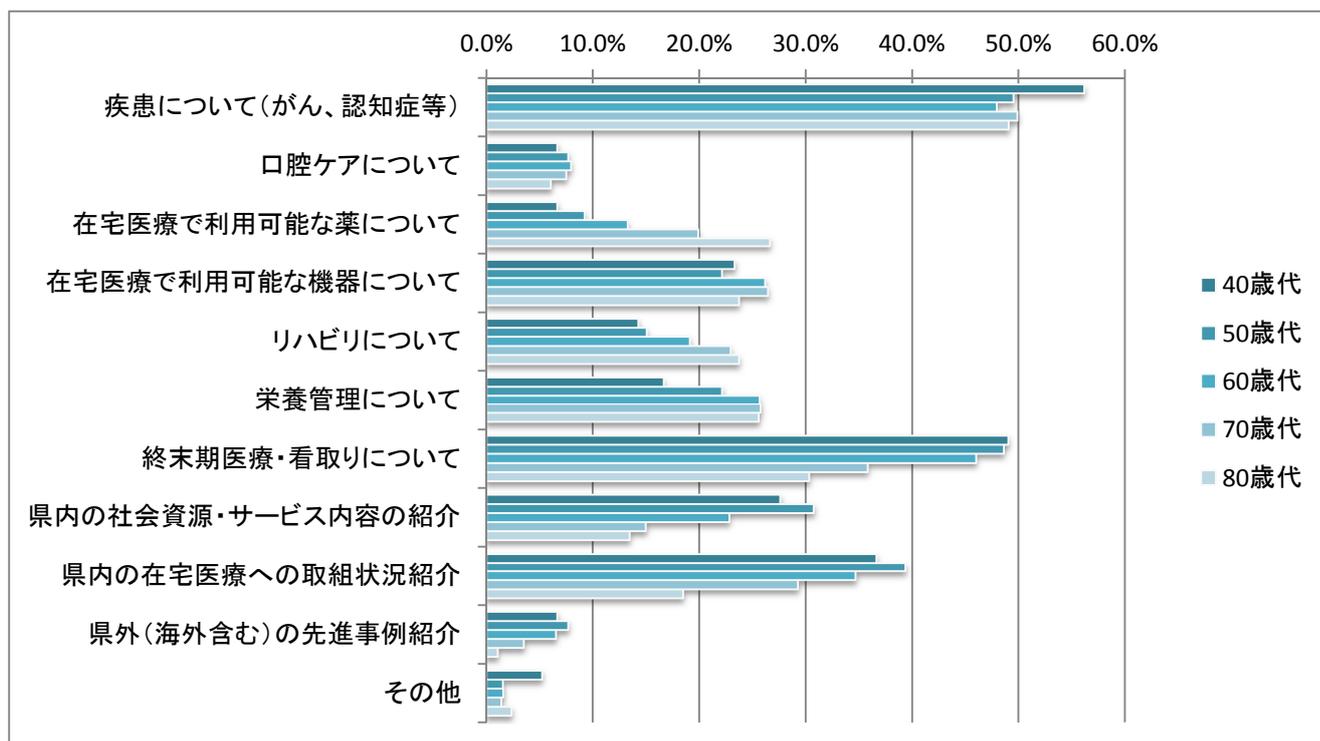
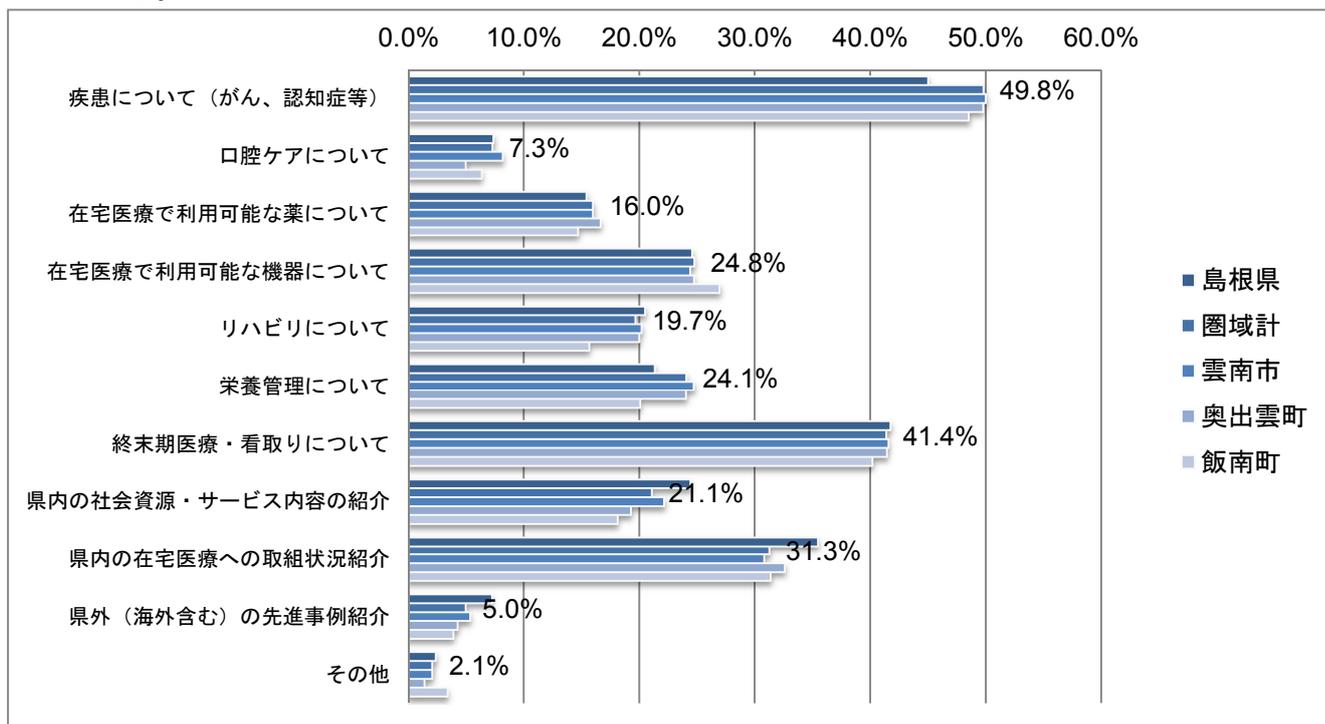


## 問10 在宅医療に関して取り上げて欲しいテーマ

問10 今後、在宅医療に関する講演会・テレビ特集等を行う場合に、取り上げて欲しいテーマは何ですか。(〇は3つまで)

在宅医療に関し取り上げて欲しいテーマは次のとおりとなっており、「疾患について(がん、認知症等)」が最も多くなっている。

年代別では、若い世代では「終末期医療・看取り」、「県内の社会資源・サービス内容」が多く、高齢世代では「在宅医療で利用可能な薬」や「リハビリ」、「栄養管理」についてが多くなっている。

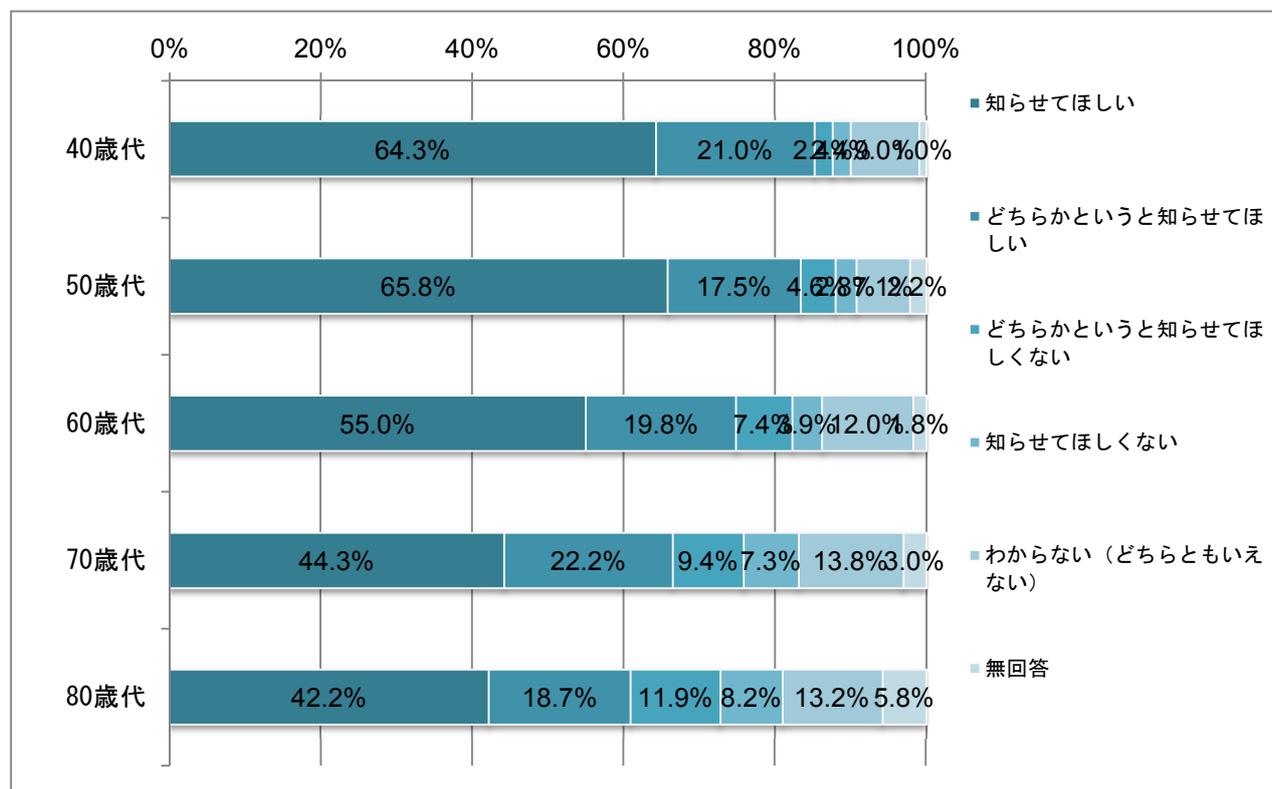
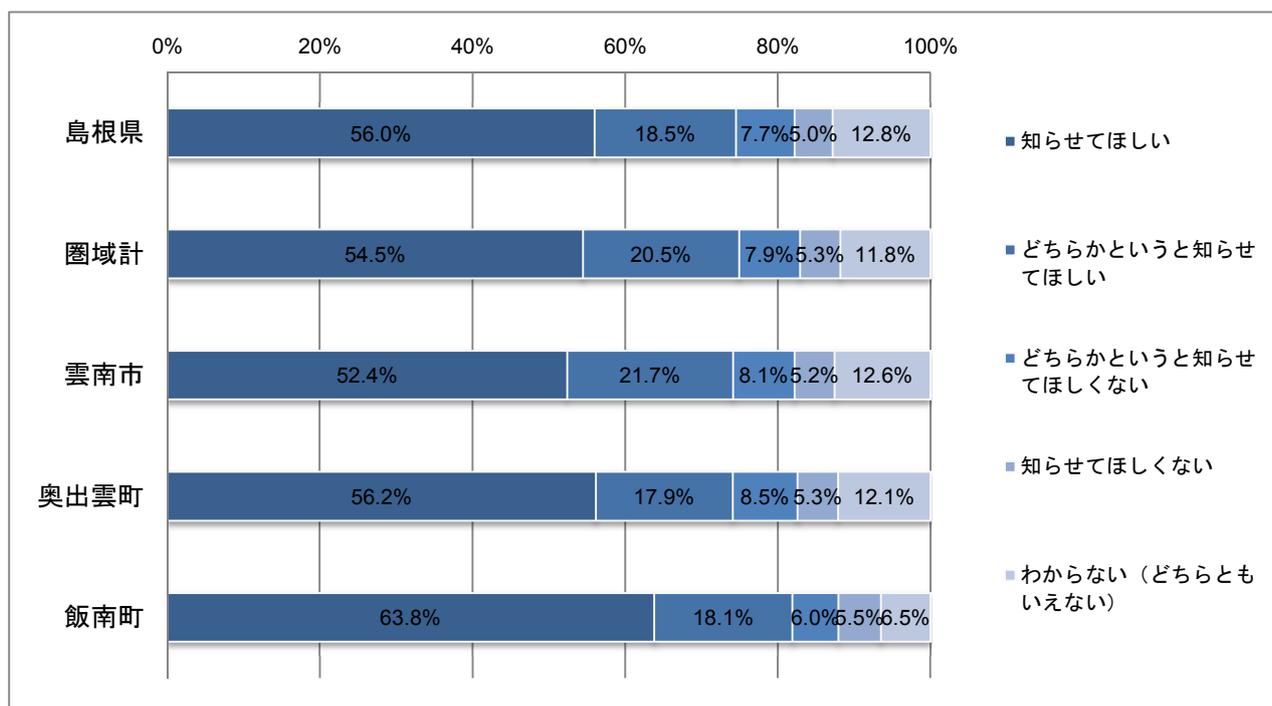


### 3 終末期医療について

#### 問 1 1 人生の最期が迫っていることの告知

問 1 1 あなたは、自分が治る見込みがなく人生の最期が迫っている場合、そのことを医師から知らせてほしいと思いますか。(○は1つ)

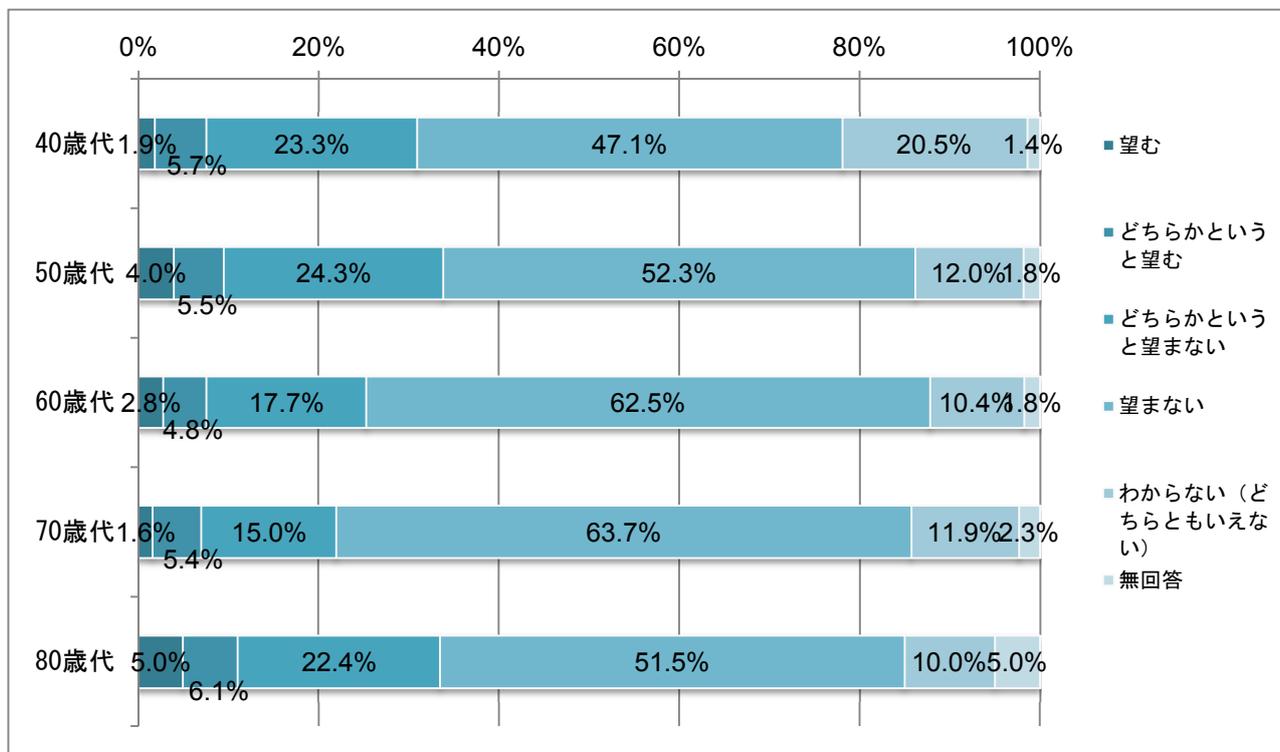
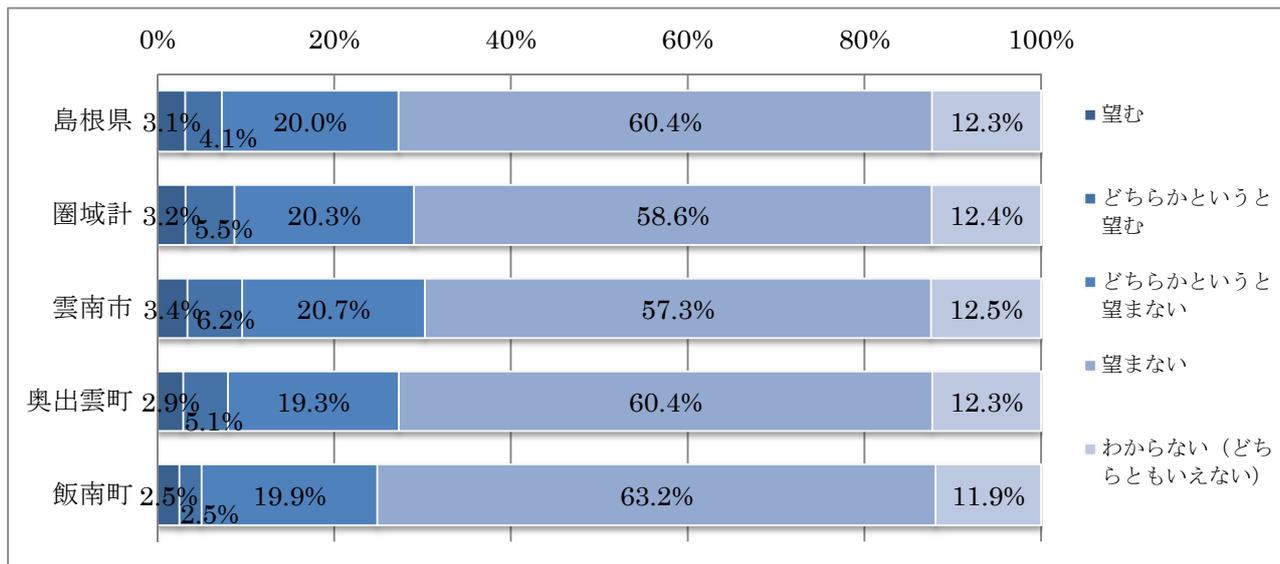
次のとおり、「知らせてほしい」が最も多くなっている。  
年代別では、若い世代ほど高くなっている。



## 問 1 2 延命治療の希望

問 1 2 あなたは、自分が治る見込みがなく人生の最期が迫っていると告げられた場合、延命治療を望みますか。(○は1つ)

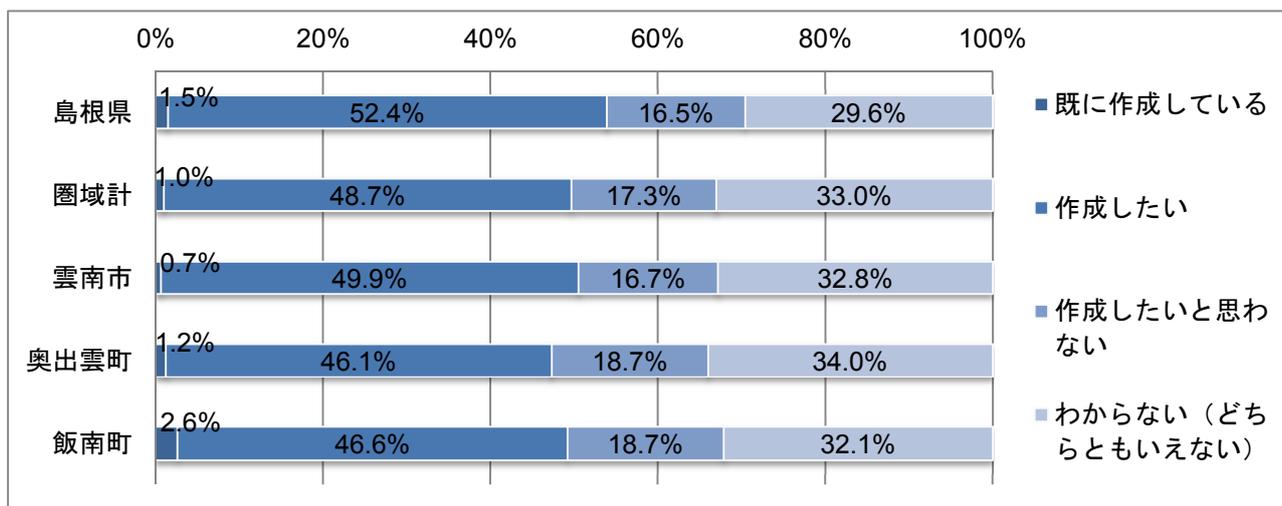
延命治療について、次のとおり「望まない」が最も多くなっている。「どちらかというと望まない」と合わせると約80%となっている。



### 問13 事前要望書、リビング・ウィルなどの作成

問13 あなたは、自分の意思が確認できなくなった場合に備えて、延命治療等への希望をあらかじめ記載した書類（事前要望書、リビング・ウィルなど）を作成しておきたいですか。（○は1つ）

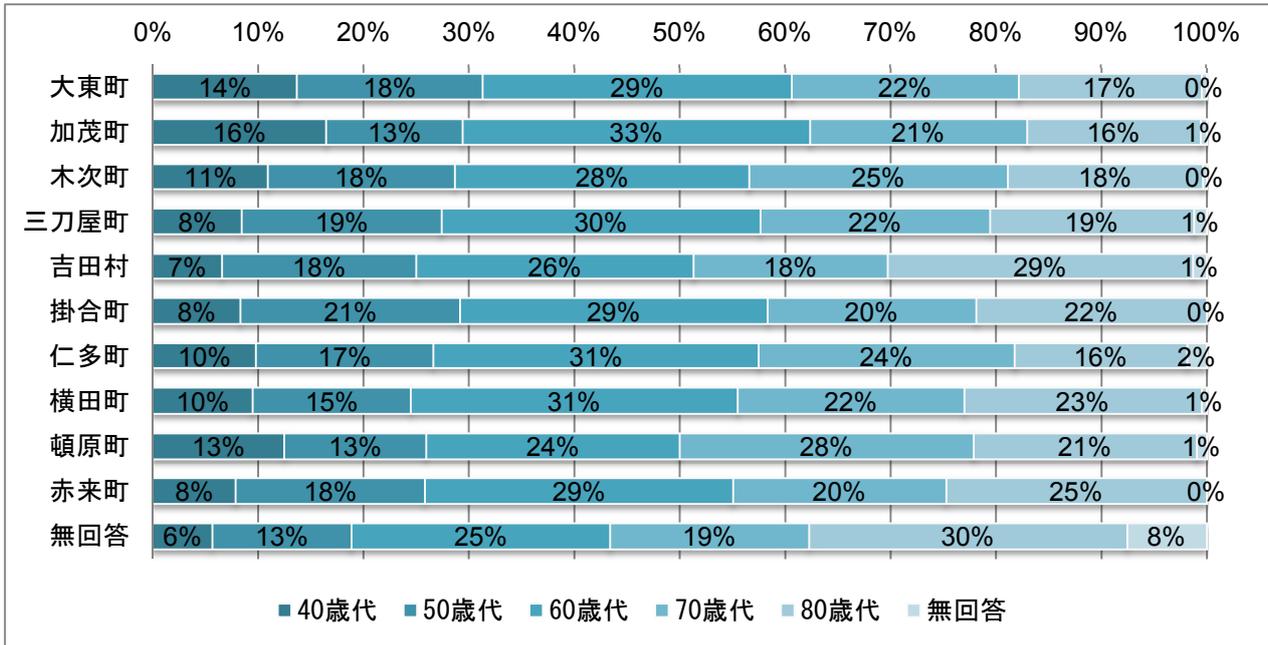
次のとおり、「作成したい」が最も多くなっているが、「わからない（どちらともいえない）」の回答も多くある。また、高齢になるにつれ「作成したい」の割合が減少している。



### Ⅲ 調査結果（雲南圏追加項目）

#### 1 あなたご自身について

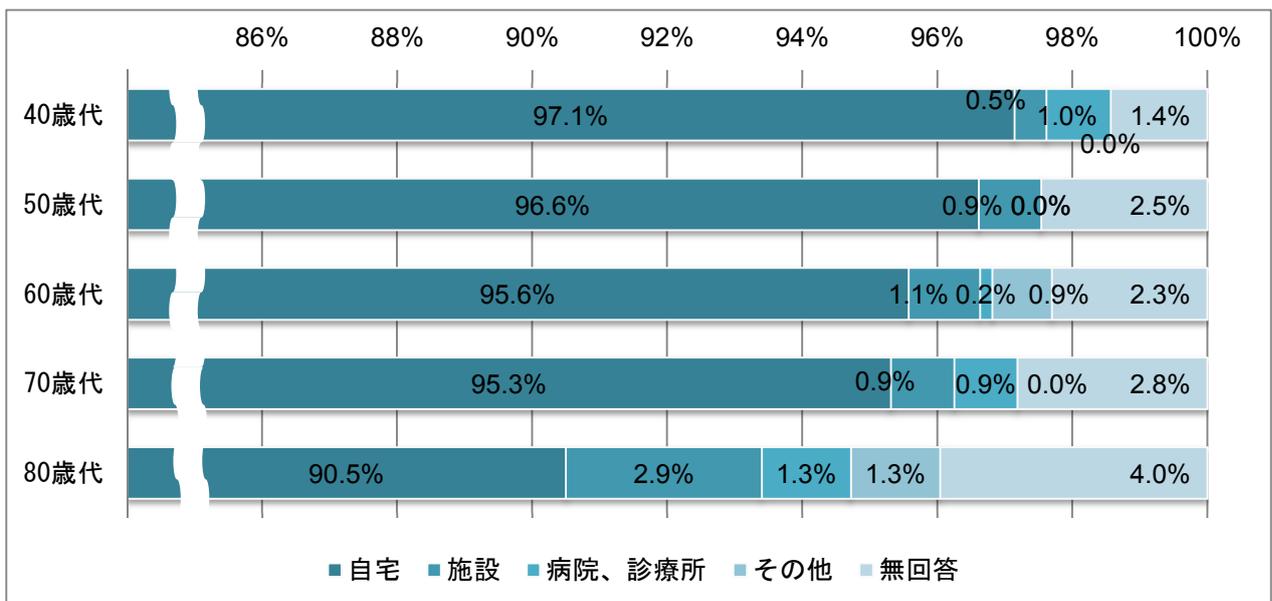
##### 問1 現在の居所（旧町村別）



(人)

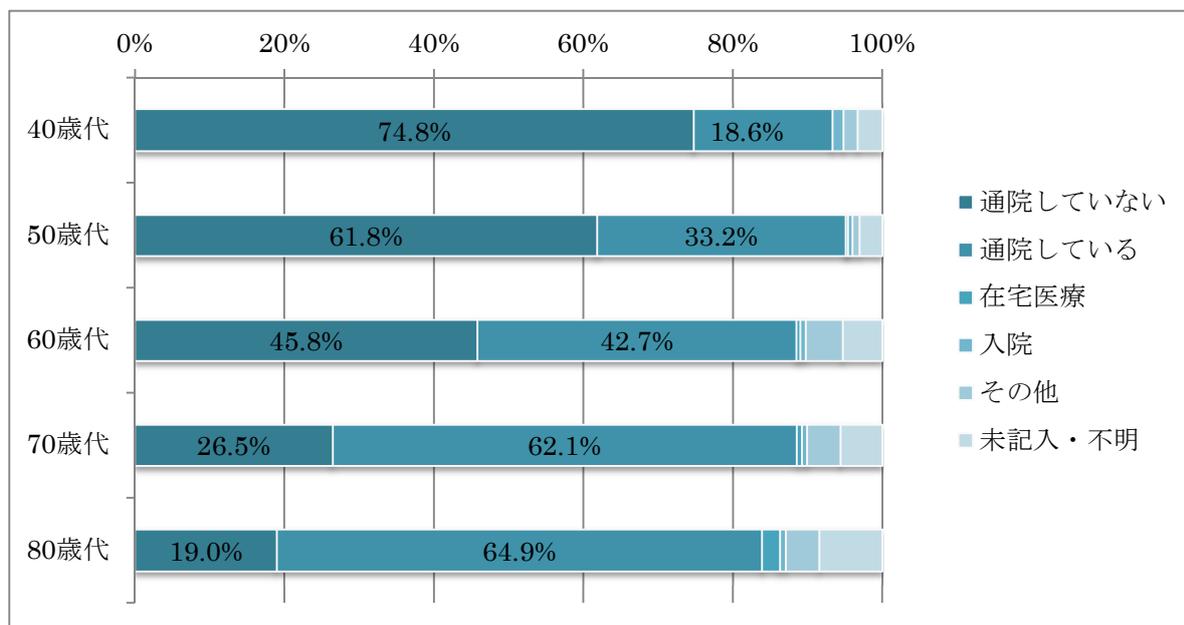
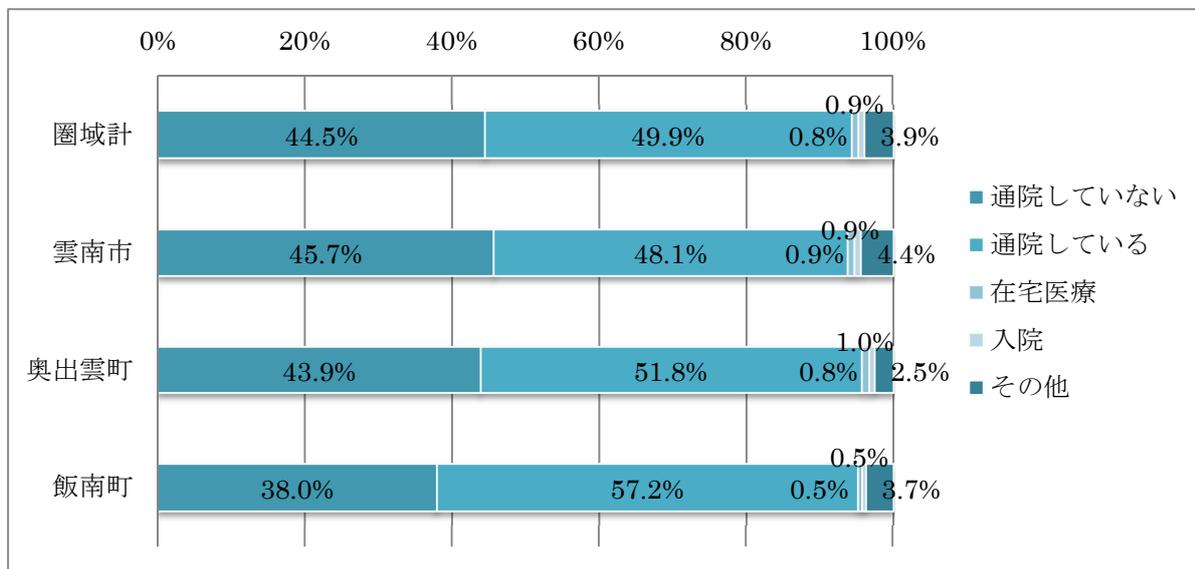
旧町村	大東町	加茂町	木次町	三刀屋町	吉田村	掛合町	仁多町	横田町	頓原町	赤来町	無回答	計
40歳代	56	28	29	21	5	8	21	19	13	7	3	210
50歳代	72	22	47	47	14	20	36	30	14	16	7	325
60歳代	120	56	74	75	20	28	66	62	25	26	13	565
70歳代	88	35	65	54	14	19	52	43	29	18	10	427
80歳代	71	28	49	48	22	21	35	45	22	22	16	379
無回答	2	1	1	3	1	1	4	1	1	1	4	18
計	409	170	265	248	76	96	214	200	104	89	53	1,924

##### 問2 現在の居所



### 問3 受診の状況

年代別では、60歳代までは「通院していない」の方が多いが、70歳代から「通院している」の方が多くなっている。



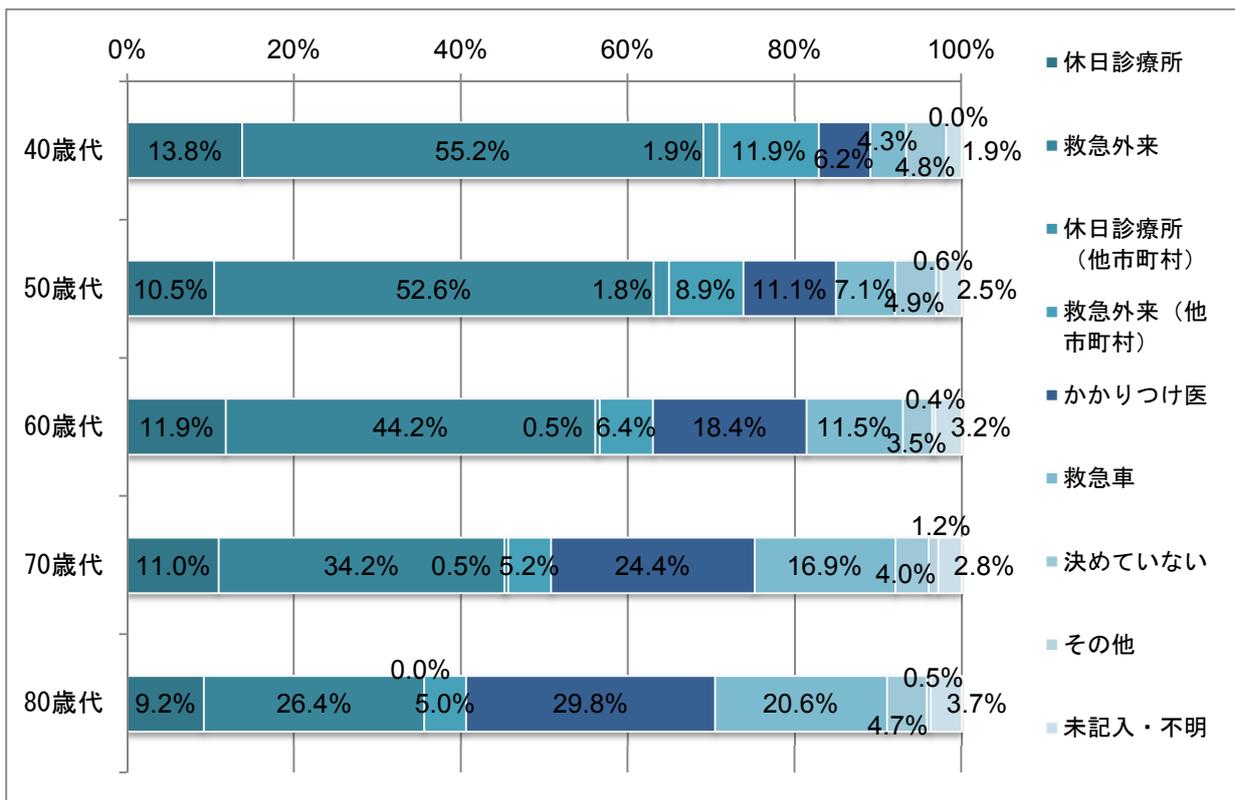
## 2 在宅医療・介護について

### 問4 夜間・休日の緊急時の医療機関利用（連絡）先

問4 夜間や休日などにあなたが自宅で急に具合が悪くなった時やケガをした場合（医療機関での受診が必要だと思うが、何とか自力で医療機関に行ける程度の場合）、まずどの医療機関を利用（または連絡を）しますか。（○は1つ）

各市町とも、「救急外来」と回答した人が多い。雲南市では次いで「かかりつけ医」、奥出雲町及び飯南町では「休日診療所」が多くなっている。

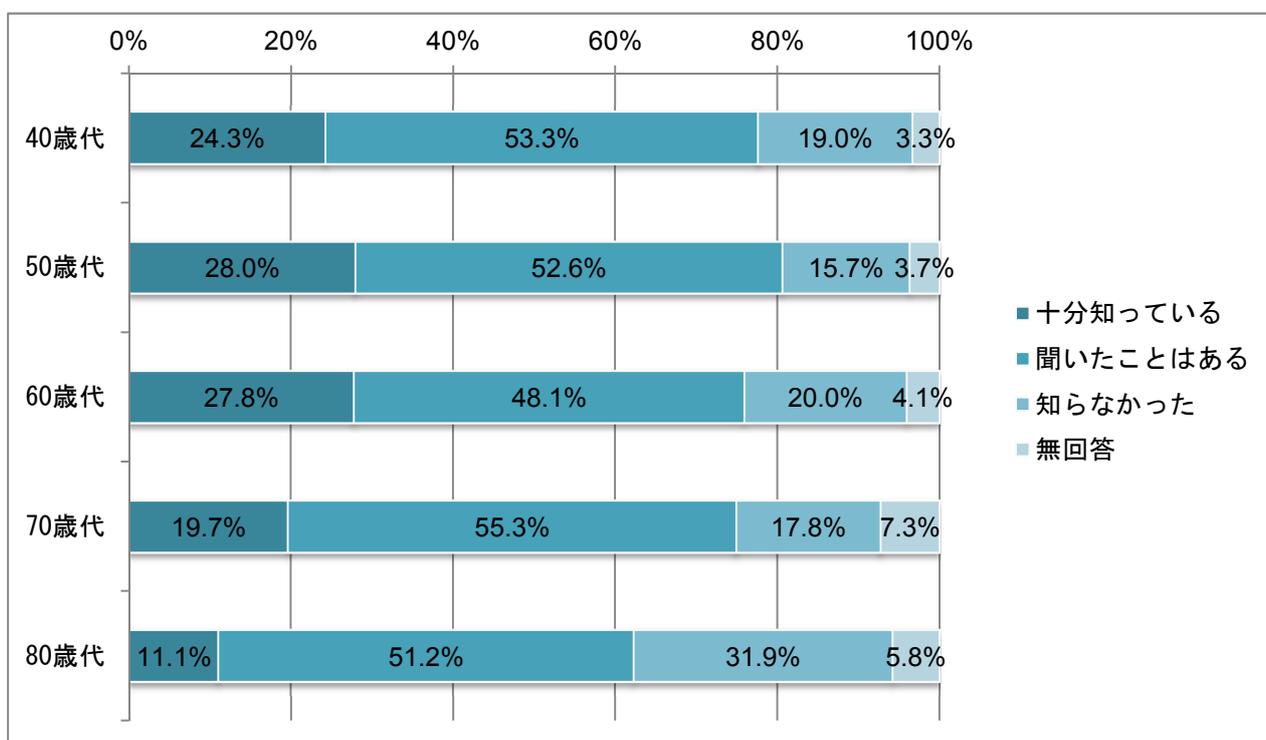
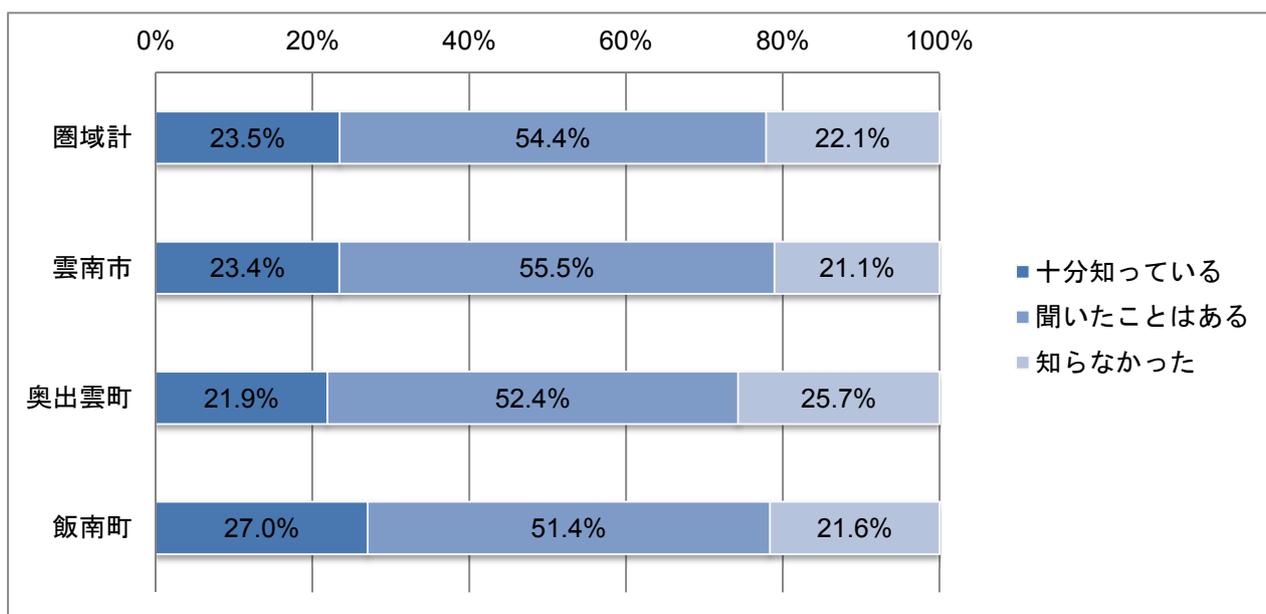
年代別では、若い世代ほど「救急外来」と回答した人が多く、高齢になると「かかりつけ医」、「救急車」の割合が多くなる。



## 問5 「緩和ケア」の認識度

問5 あなたは、「緩和ケア」という言葉をご存知ですか。(〇は1つ)

年代別では、50歳代、60歳代で「十分知っている」又は「聞いたことがある」と回答した人が多かった。



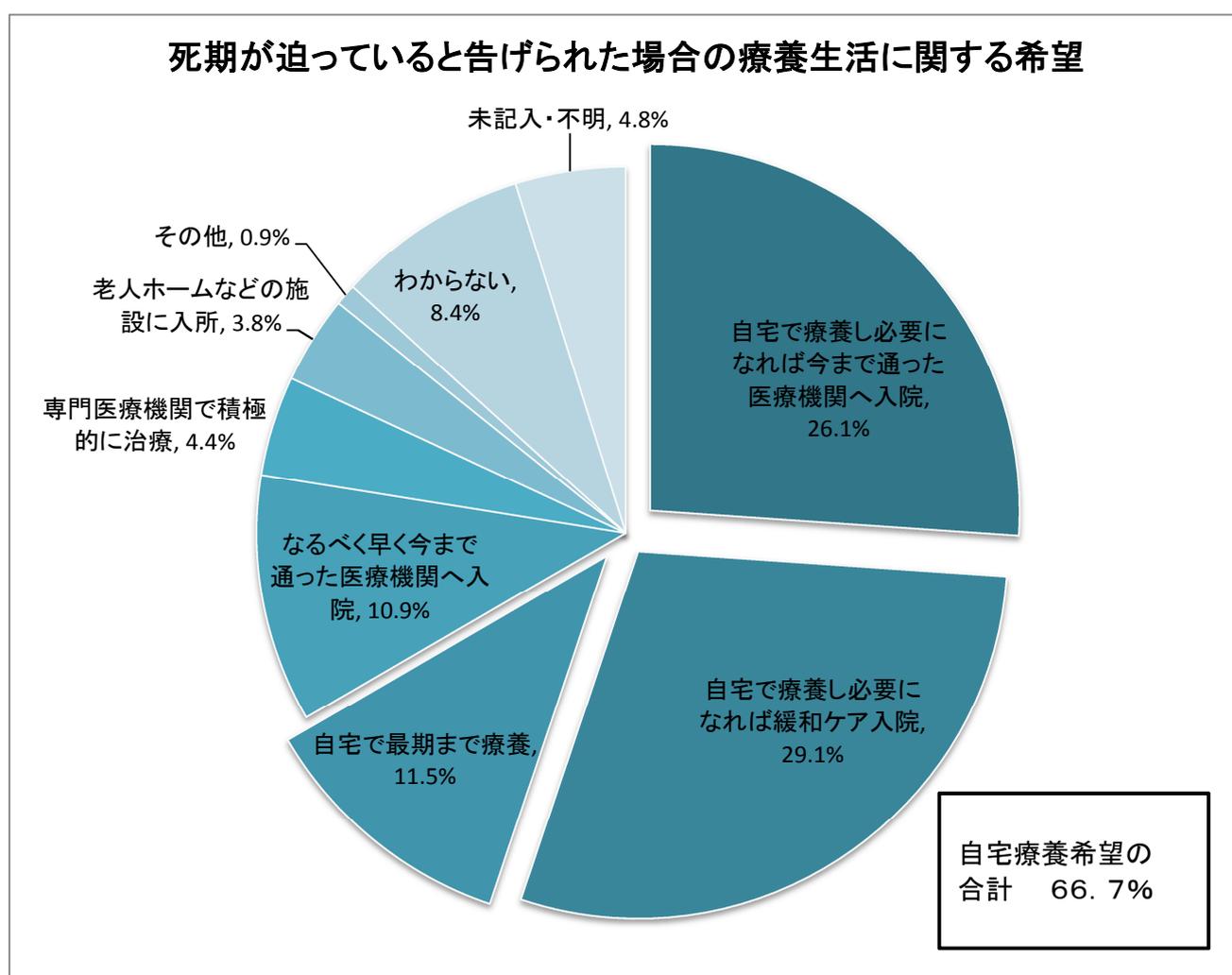
## 問6 人生の最期が迫っている時の療養の場所

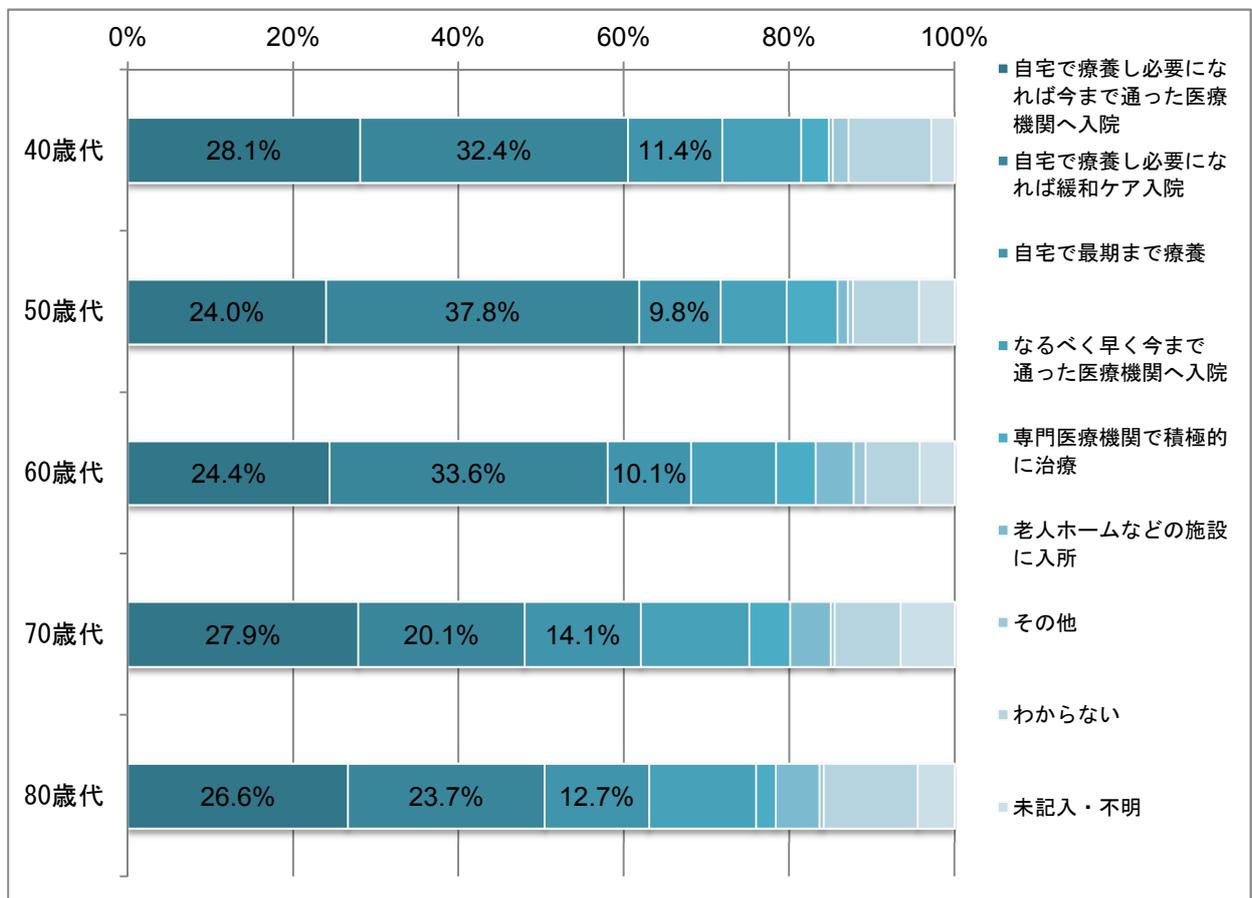
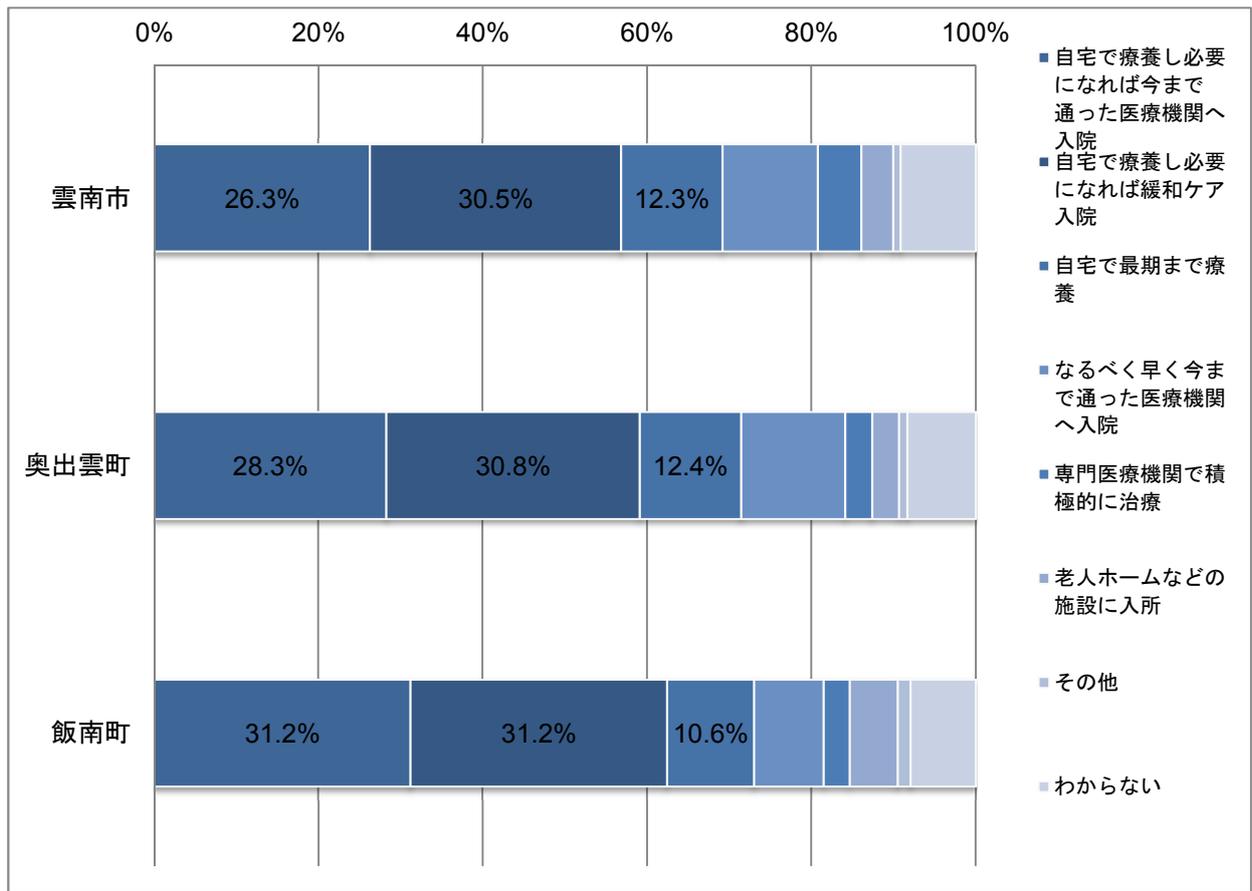
問6 あなたは、自分が治る見込みがなく人生の最期が迫っている（6カ月程度あるいはそれより短い期間を想定）と告げられた場合、最期はどこで療養生活を送りたいと思いますか。（〇は1つ） ※家族の負担及び経済的な負担等は考えずにお答えください。

治る見込みがなく人生の最期が迫っていると告げられた場合、最期の療養生活の希望は次のとおりとなっている。

自宅で療養し必要になれば入院したいと回答した人と自宅で最期まで療養したいという人を合わせた自宅療養希望の合計は66.7%となっている。

また、年代別では70歳代、80歳代で「自宅で療養し必要になれば緩和ケア入院」を希望する人がほかの年代に比べて少なく、「自宅で最期まで療養」を希望する人が多くなっている。





## 問7 医療・介護サービスの認識度

問7 雲南圏域においても以下のような在宅医療・介護サービスを受けることができますがご存知ですか。(各項目についてそれぞれ該当する数字を1つずつ選んで○で囲んでください。)

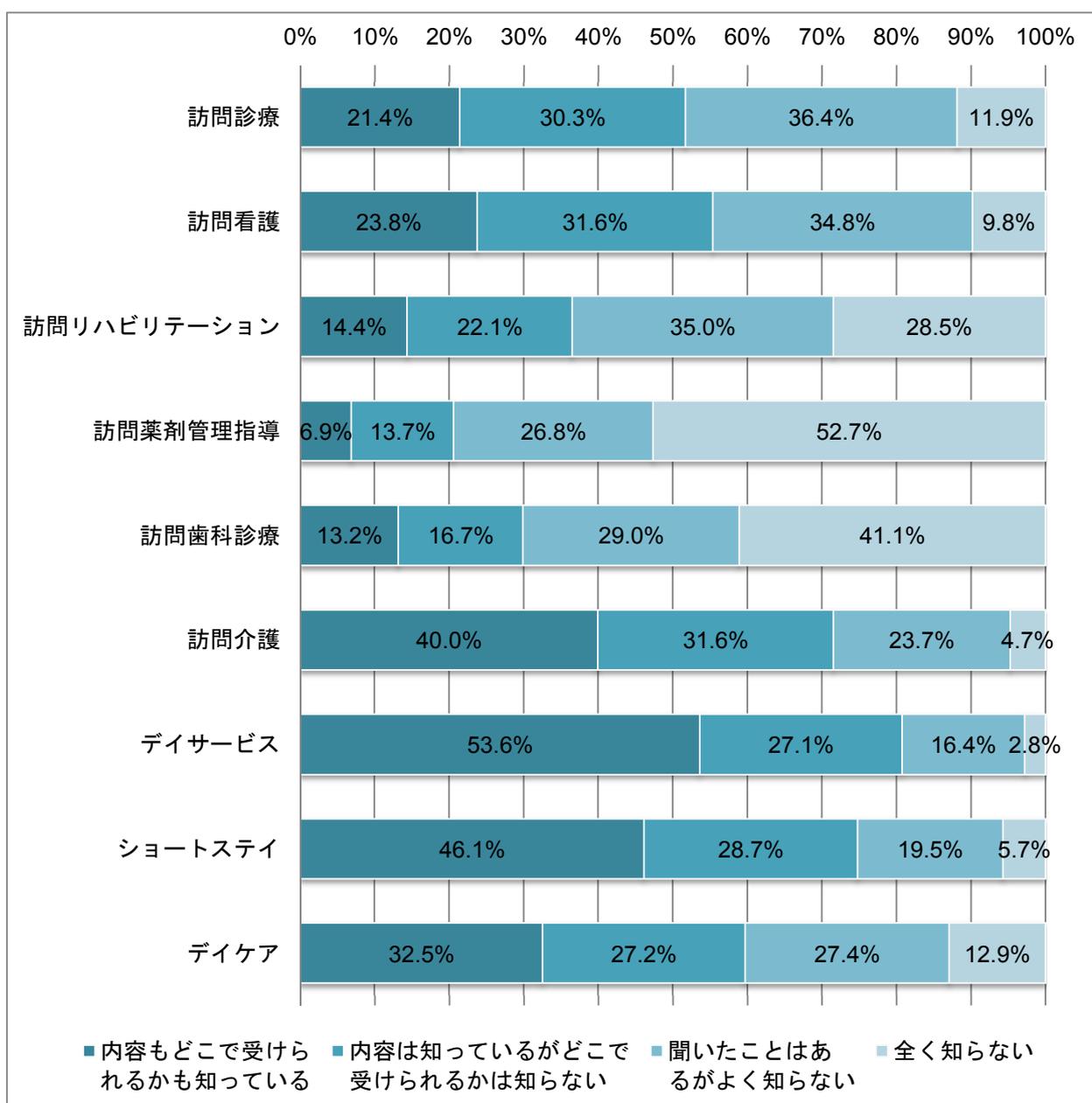
在宅医療・介護サービスの認識度は次のとおりとなっている。

「内容もどこで受けられるかも知っている」が最も多かったものは「デイサービス」であり、53.6%となっている。一方、「全く知らない」が最も多かったのは「訪問薬剤管理指導」で、52.7%となっている。次いで「訪問歯科診療」が41.1%となっている。

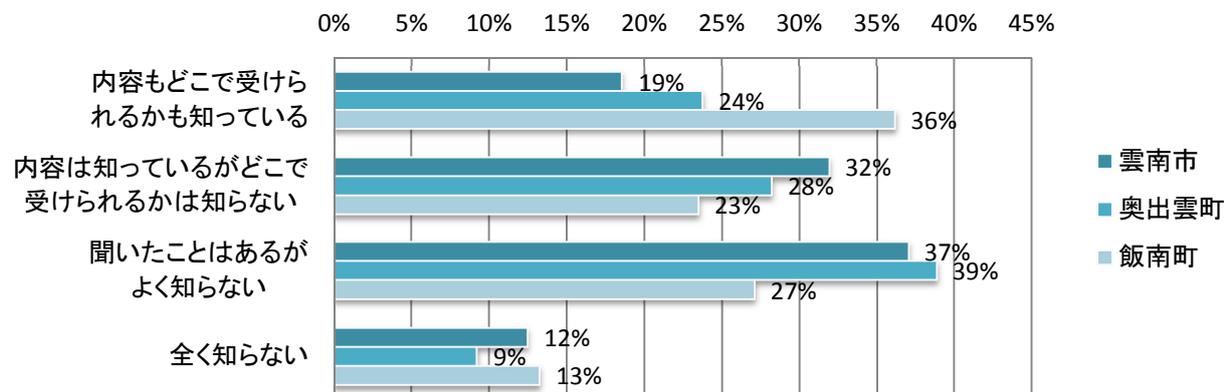
全体的に介護サービスの方の認識が高く、医療サービスは低い。

市町別では、全項目について飯南町が高くなっている。

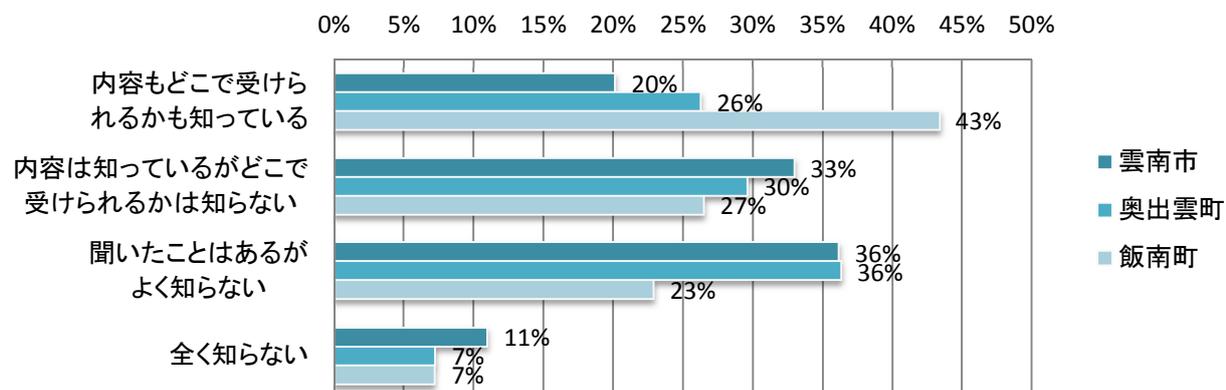
年代別では、50歳代から70歳代の認識が高く、40歳代と80歳代は低い。



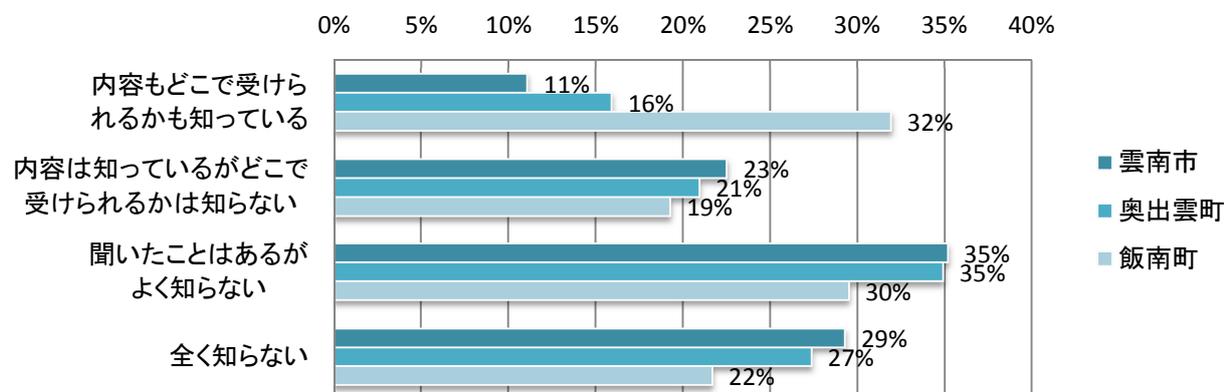
## 訪問診療



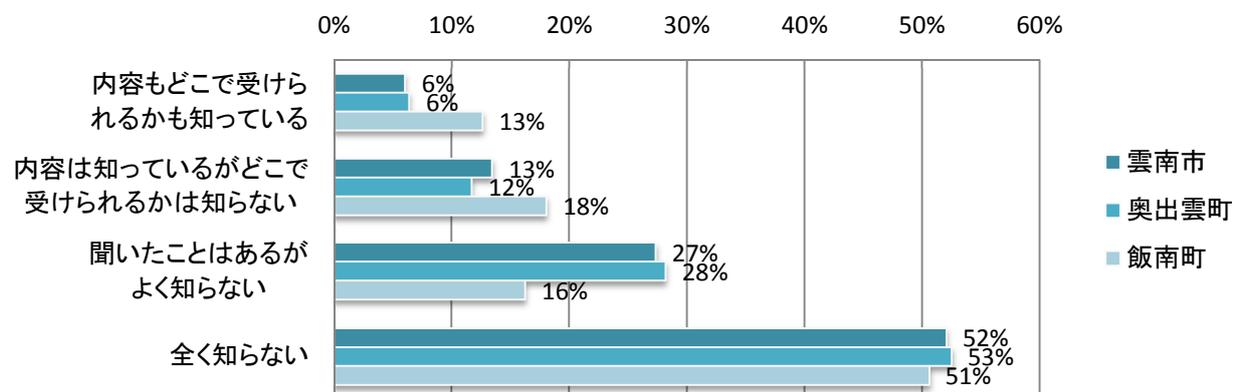
## 訪問看護



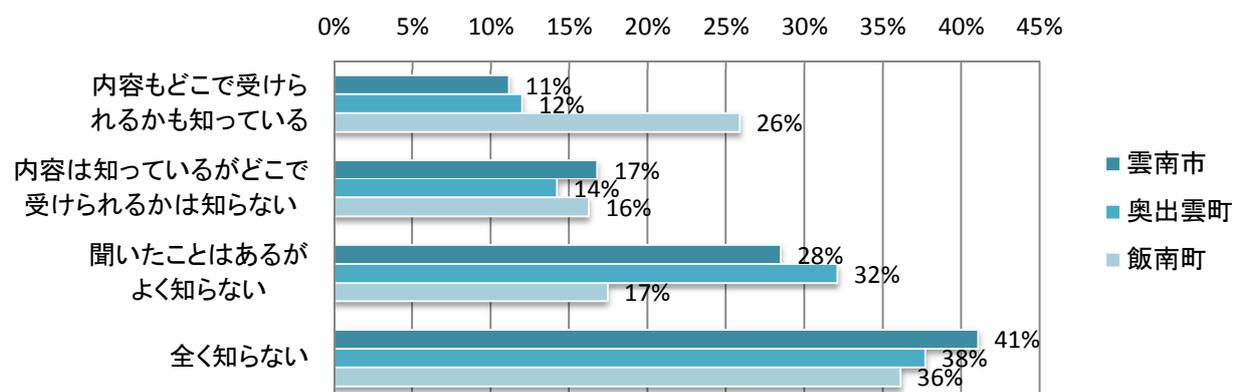
## 訪問リハ



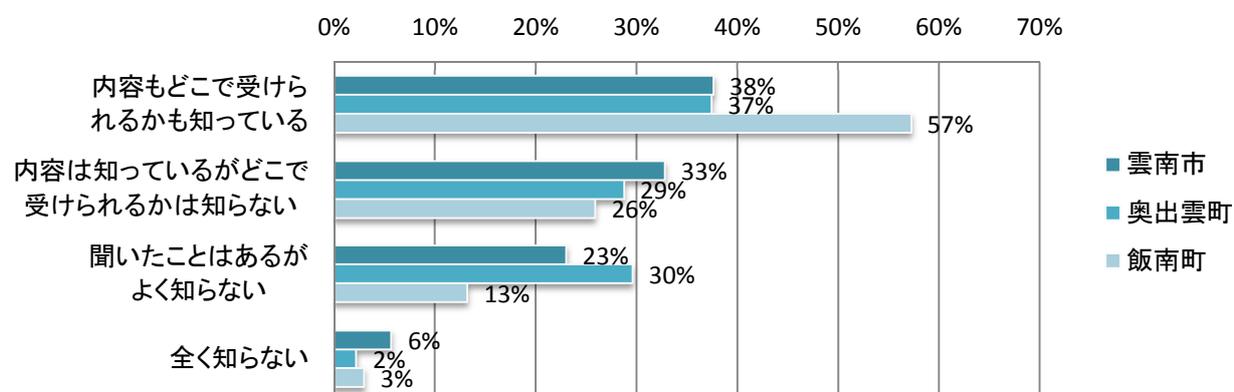
## 訪問薬剤管理指導



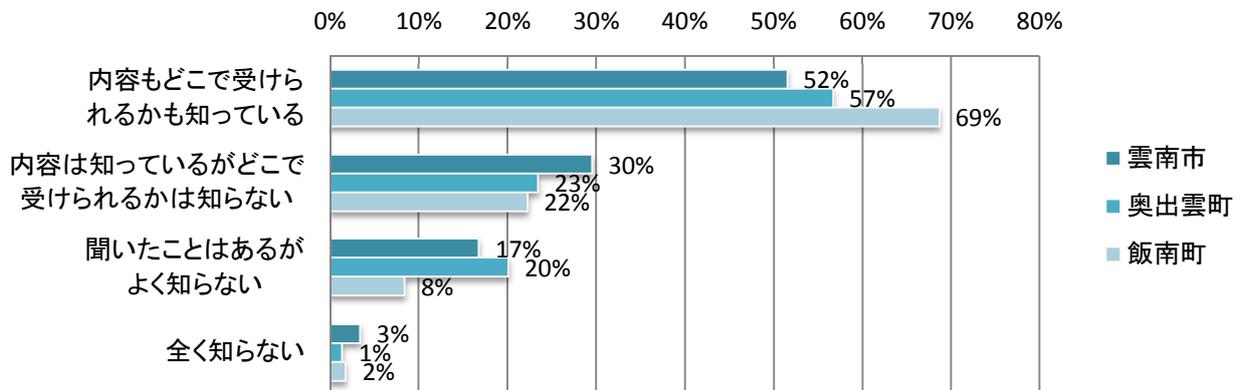
## 訪問歯科診療



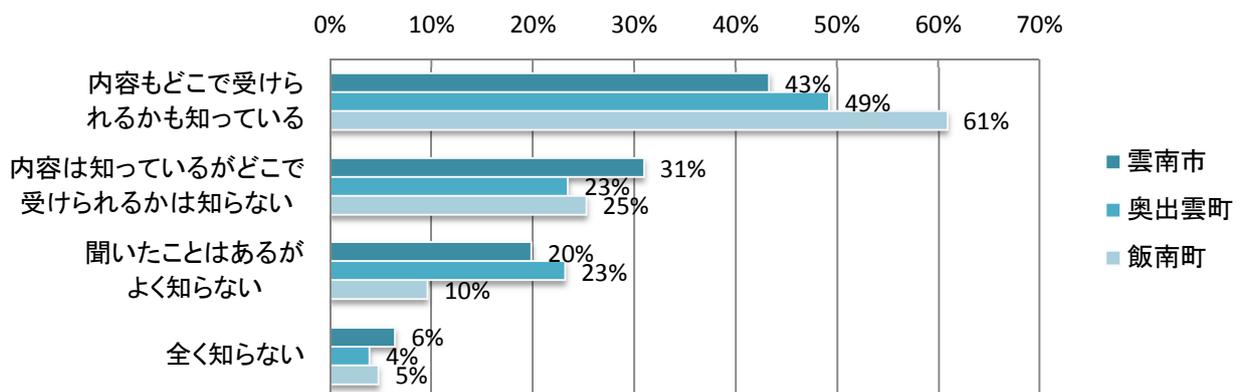
## 訪問介護



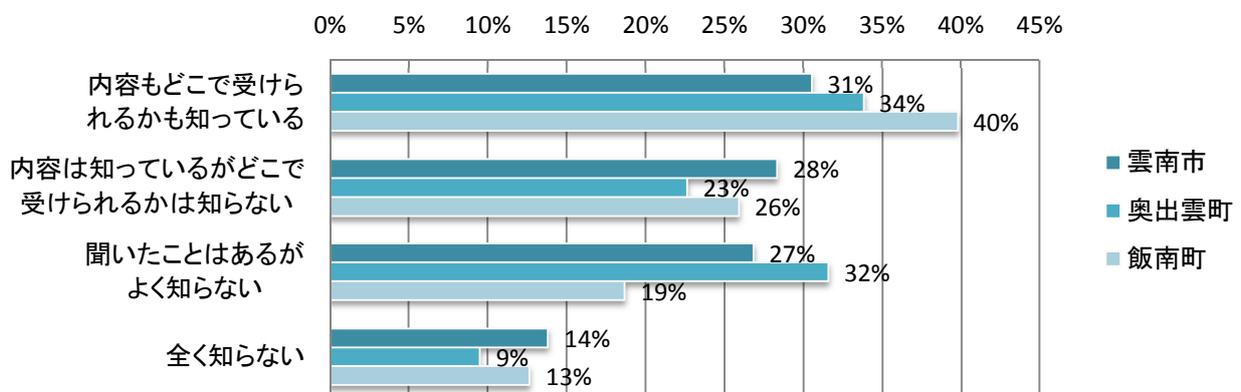
## デイサービス



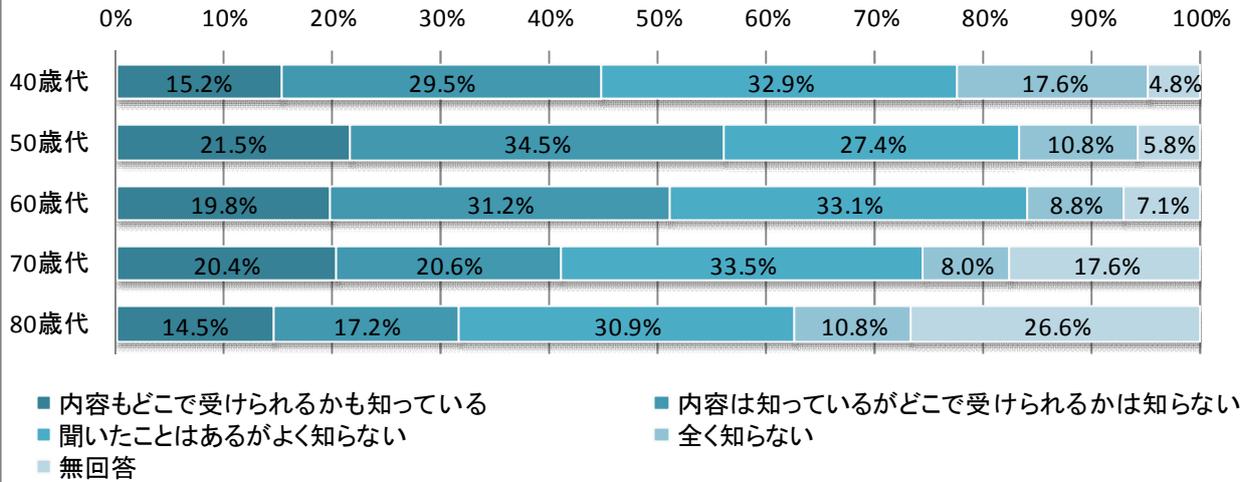
## ショートステイ



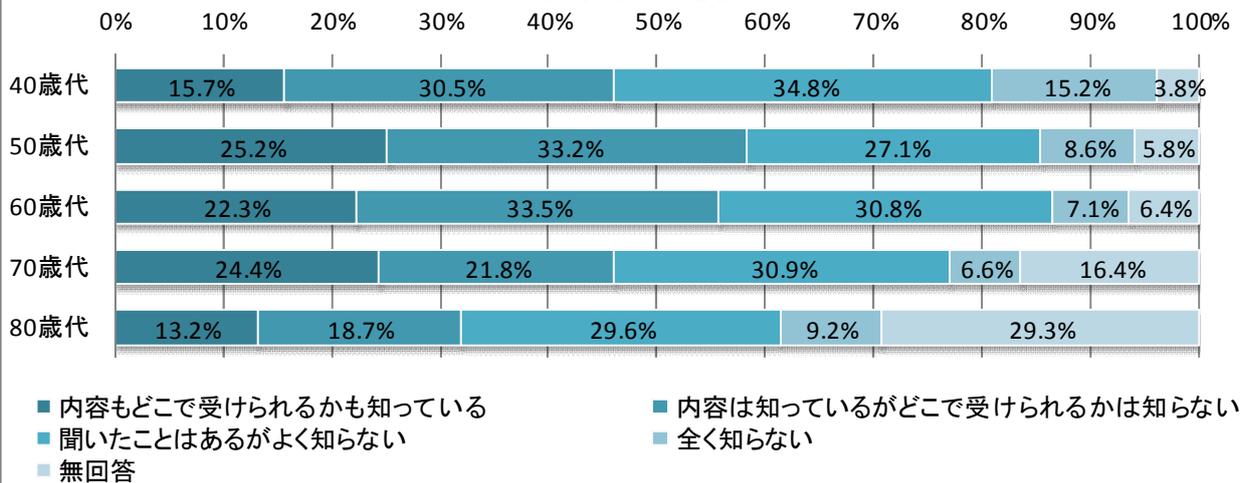
## デイケア



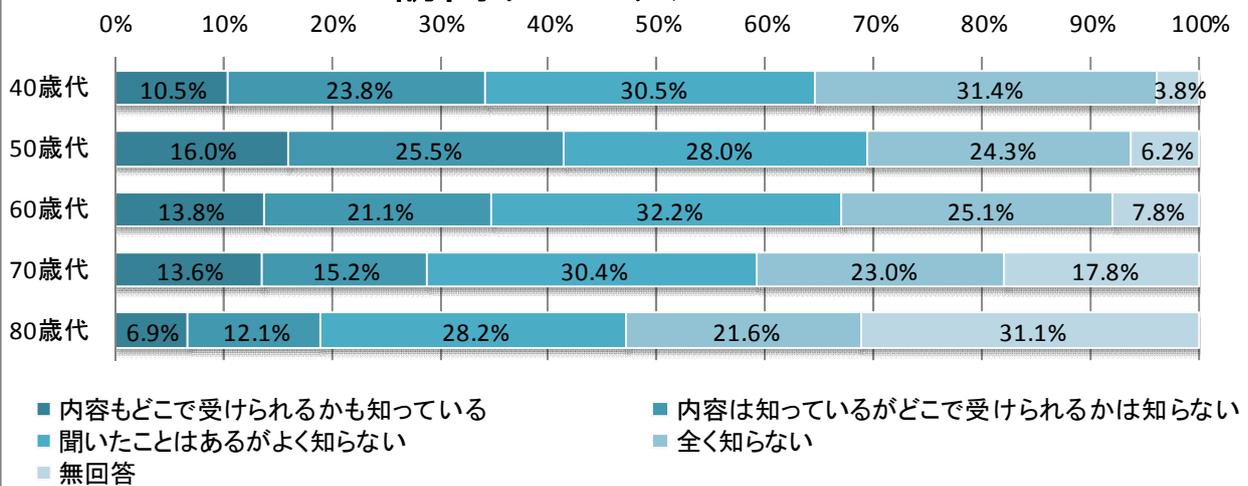
## 訪問診療



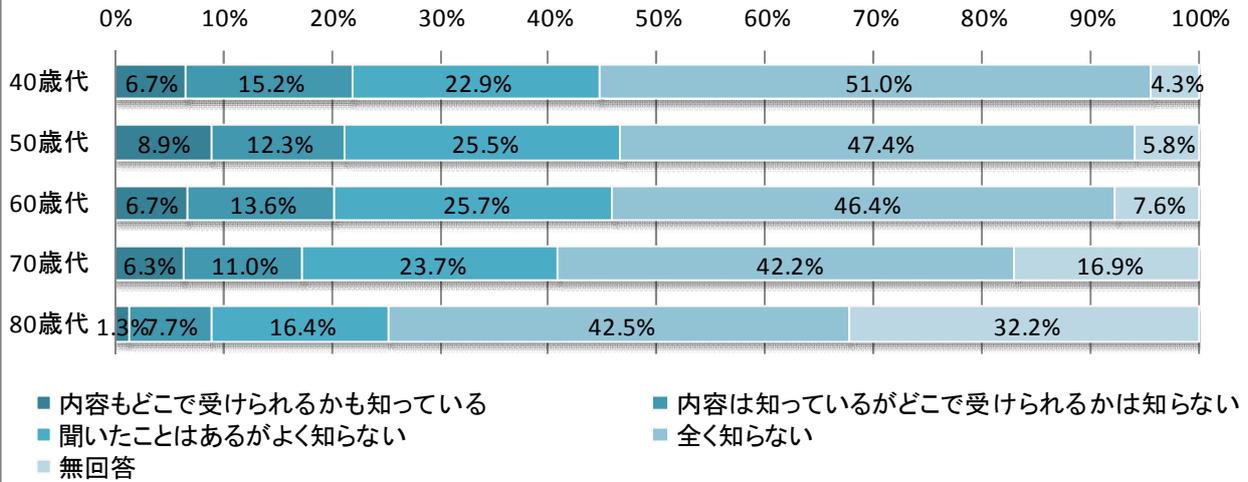
## 訪問看護



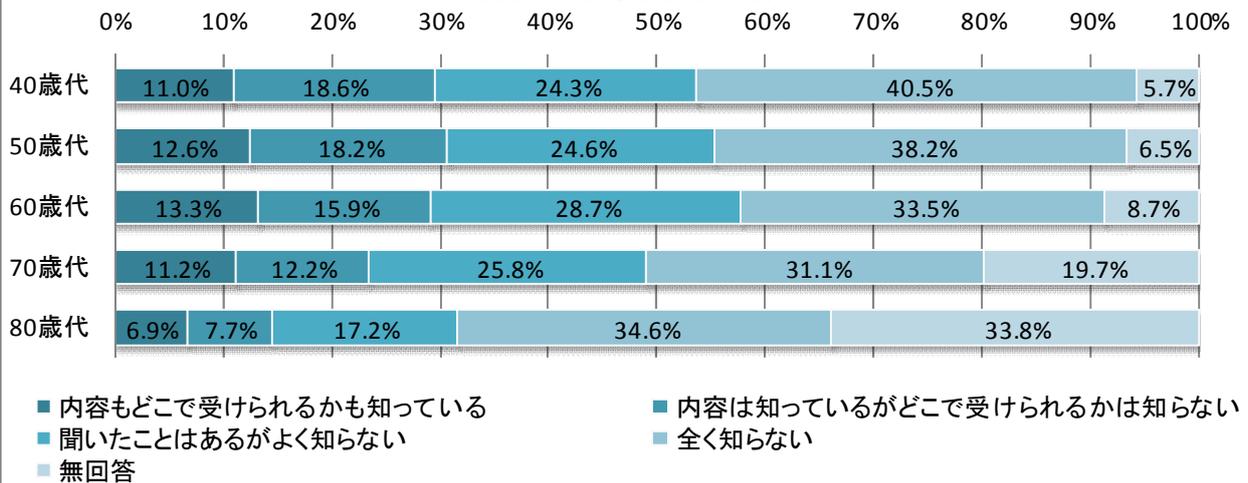
## 訪問リハビリテーション



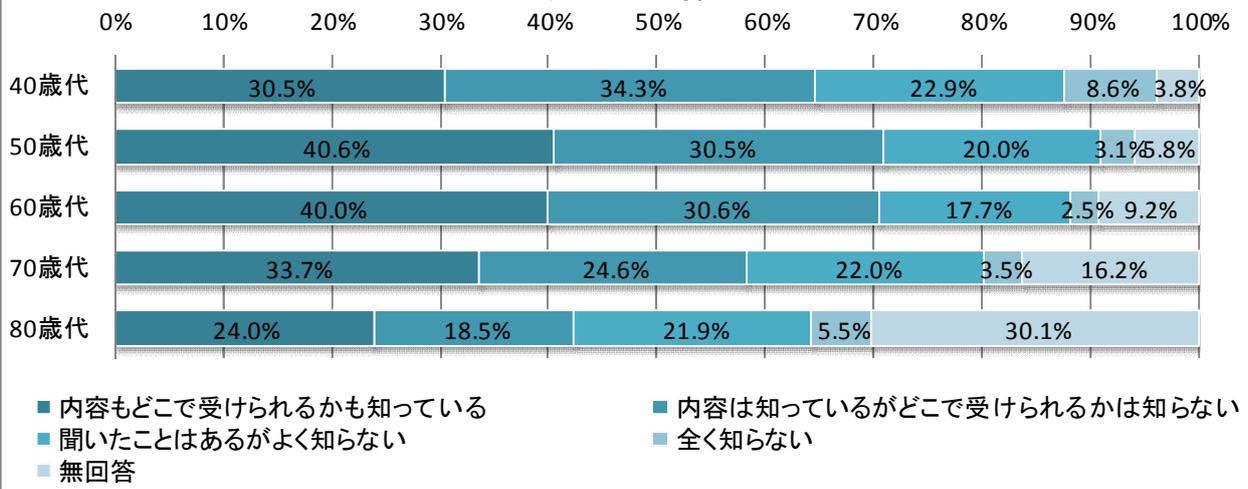
## 訪問薬剤管理指導



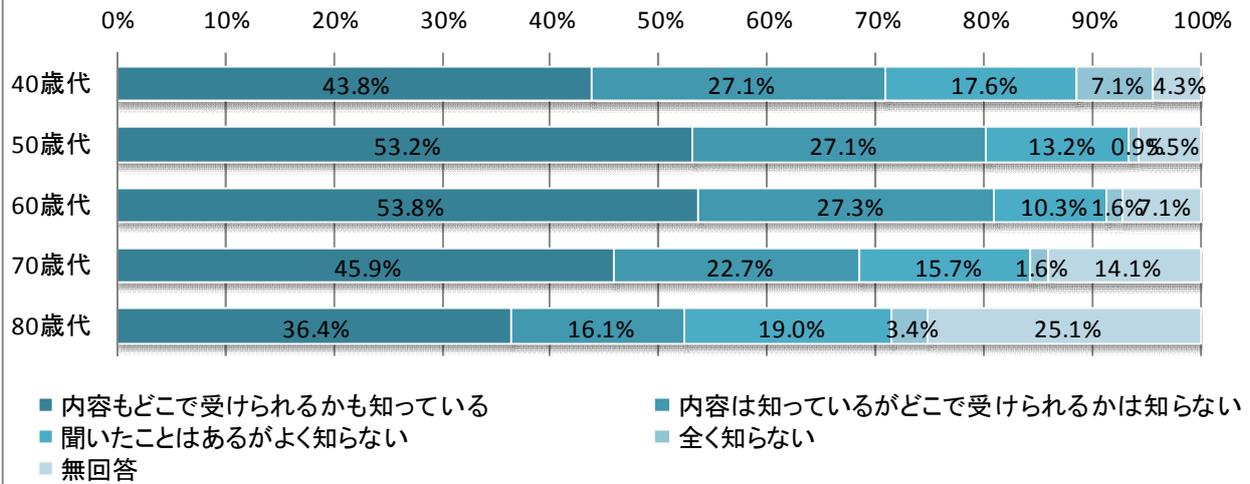
## 訪問歯科診療



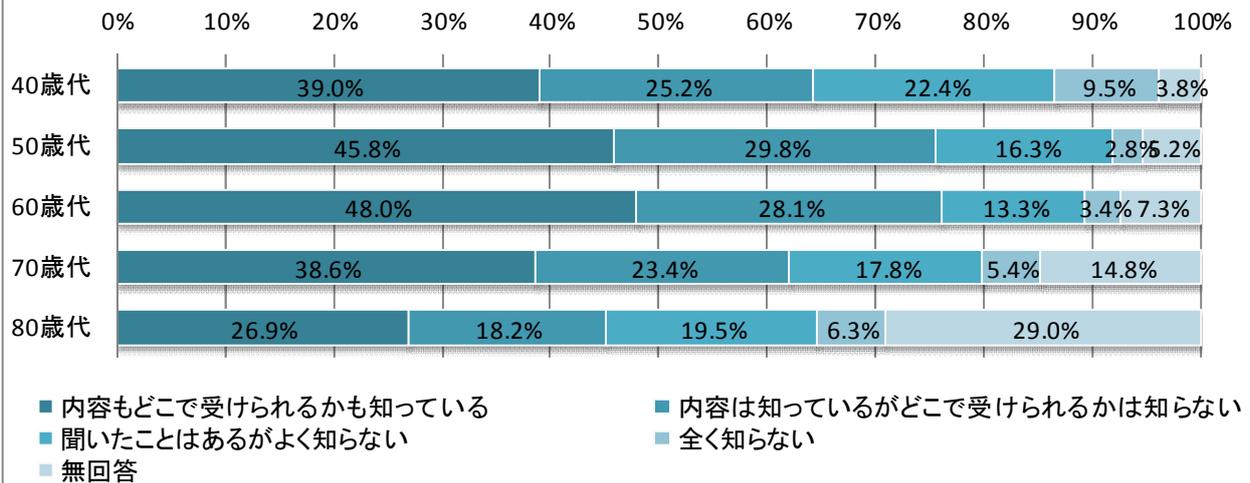
## 訪問介護



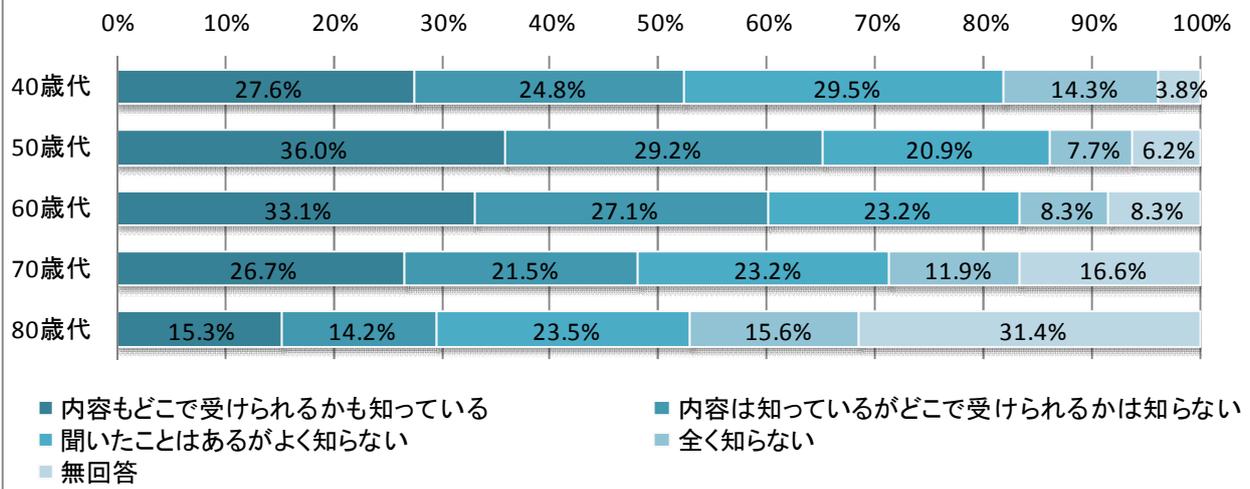
## デイサービス



## ショートステイ



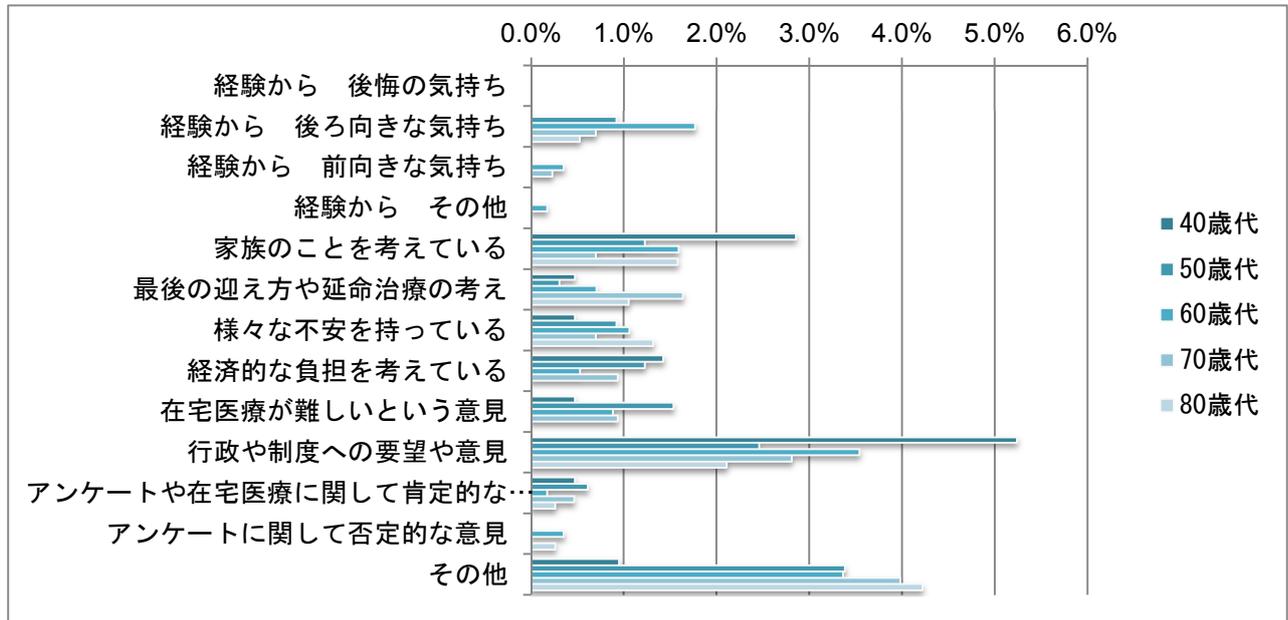
## デイケア



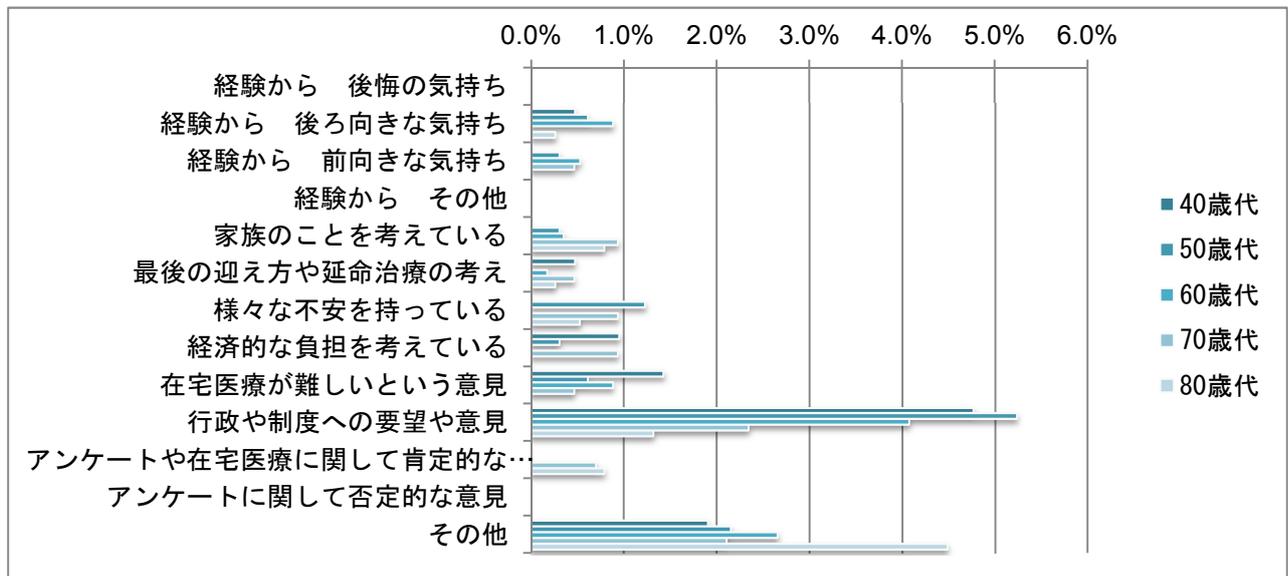
#### IV 自由意見

行政や制度への要望が多かった。

自由意見（全県調査用紙記入分）



自由意見（雲南圏域調査用紙記入分）



項目		例
経験により	後悔の気持ち	もっとしてあげたかった
	後ろ向きな気持ち	大変だった、大変である、困ってある無理と思う、不安である、
	前向きな気持ち	助かった、助かっている、安心している
	その他	
家族のことを考えている		わがママを言えない、言ってはいけない、負担をかけたくない、考える必要がある
最後の迎え方や延命治療の考え		
様々な不安を持っている		
経済的な負担を考えている		
在宅医療が難しいという意見		
行政や制度への要望や意見		
アンケートや在宅医療に関して肯定的な意見		勉強になった、考えないといけなかった、在宅医療したい、看取りをしたい
アンケートに関して否定的な意見		意味がない
その他		



## Ⅱ 在宅医療・介護について

問6 老衰、がん、脳卒中の後遺症等で長期の療養が必要になった場合、在宅医療を希望する人が、病院に入院せずに自宅で療養を継続できる体制を社会全体で作っていくべきだと思いますか。(○は1つ)

1. 思う
2. どちらかというと思う
3. どちらかというと思わない
4. 思わない
5. わからない(どちらともいえない)

問7 あなた自身が在宅医療を受けるかどうか悩んだ時、特にどのような事が判断の材料となると思いますか。(○は3つまで)

1. お住いの市町村で受けることができる在宅医療の内容(点滴、酸素吸入、麻薬投与など)
2. お住いの市町村に訪問をしてくれる医師・看護師等の体制
3. 家庭に医師・看護師等が訪問することへの精神的負担
4. 急に病状が変わった時の対応
5. 在宅において痛みや呼吸苦などの症状コントロールが可能かどうか
6. 不安を感じた際に、いつでも相談に乗ってもらえる窓口の有無
7. 介護してくれる家族の有無
8. 介護してくれる家族の精神的・身体的負担
9. 家族の理解・協力が得られるかどうか
10. 療養できる部屋や風呂・トイレなど居住環境
11. 経済的な負担
12. 入院のほうがいい治療を受けられるのではないかと不安
13. その他( )

問8 あなたの家族が在宅医療を受けることとなった場合、あなたが特に心配に思う事を以下から選択してください。(○は3つまで)

1. 在宅で受けることのできる医療の内容
2. 訪問をしてくれる医師・看護師等の体制
3. 家庭に医師・看護師等が訪問することへの精神的負担
4. 急に病状が変わった時の対応
5. 在宅での痛みのコントロール
6. 不安を感じた際に、いつでも相談に乗ってもらえる窓口の有無
7. 介護による自分自身の仕事・子育て等への影響
8. 介護による自分自身の精神的・身体的負担
9. 他の家族の理解・協力が得られるかどうか
10. 療養できる部屋や風呂・トイレなど居住環境
11. 経済的な負担
12. 入院のほうがいい治療を受けられるのではないかと不安
13. その他( )

(次頁にお進みください)

問9 今後、あなたのお住いの市町村で、今以上に在宅医療を推進していく上で、特に必要と思うものは何ですか。(〇は3つまで)

1. 地域の医療・介護資源を分かりやすく掲載した一覧・地図の作成
2. 24時間いつでも診てもらえる体制
3. 定期的に訪問診療・訪問看護が受けられる体制
4. 容体の急変時の入院が可能な体制
5. 不安を感じた場合に相談できる窓口
6. 家族の負担軽減のためのサービスの充実
7. 在宅医療に関わる専門家同士（医師、看護師、介護福祉士、ケアマネジャーなど）の連携体制
8. 地域住民同士の声掛けや助け合いができる地域づくり
9. 在宅医療に関する普及啓発
10. その他（ )

問10 今後、在宅医療に関する講演会・テレビ特集等を行う場合に、取り上げて欲しいテーマは何ですか。(〇は3つまで)

1. 疾患について（がん、認知症等）
2. 口腔ケアについて
3. 在宅医療で利用可能な薬について
4. 在宅医療で利用可能な機器について
5. リハビリについて
6. 栄養管理について
7. 終末期医療・看取りについて
8. 県内の社会資源・サービス内容の紹介
9. 県内の在宅医療への取組状況紹介
10. 県外（海外含む）の先進事例紹介
11. その他（ )

(次頁にお進みください)

### Ⅲ 終末期医療について

問 1 1 あなたは、自分が治る見込みがなく人生の最期が迫っている場合、そのことを医師から知らせてほしいと思いますか。(○は1つ)

1. 知らせてほしい
2. どちらかというところ知らせてほしい
3. どちらかというところ知らせてほしくない
4. 知らせてほしくない
5. わからない(どちらともいえない)

問 1 2 あなたは、自分が治る見込みがなく人生の最期が迫っていると告げられた場合、延命治療※を望みますか。(○は1つ)

※延命治療…一般に、回復の見込みがなく死期が迫っている終末期の患者への生命維持のための医療行為をいいます。決定権は患者本人にあります。

1. 望む
2. どちらかというところ望む
3. どちらかというところ望まない
4. 望まない
5. わからない(どちらともいえない)

問 1 3 あなたは、自分の意思が確認できなくなった場合に備えて、延命治療等への希望をあらかじめ記載した書類(事前要望書、リビング・ウィル\*など)を作成しておきたいですか。(○は1つ)

\*リビング・ウィルとは、個人が自らの終末期にどのような対応を求めるかの意思表示をあらかじめ明記しておく書類をいいます。

1. 既に作成している
2. 作成したい
3. 作成したいと思わない
4. わからない(どちらともいえない)

### Ⅳ. その他

問 1 4 その他、「在宅医療・介護等」に関するご意見がございましたら、お聞かせください。

お手数ですが、記入漏れがないか再度ご確認のうえ、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、9月16日(金)までにポストに投函をお願いします。

《調査にご協力いただきありがとうございました。》

## 《在宅医療・介護に関するアンケート調査》（雲南圏域版）

この調査票は雲南圏域に住所のある方へのみお配りしています。  
雲南圏域の在宅医療・介護サービスの推進に活用しますのでご回答をお願いします。

### I あなたご自身について

問1 あなたのお住まい（現在の居所）の区域についてお聞きします。（○は1つ）

1. 雲南市（大東町）
2. 雲南市（加茂町）
3. 雲南市（木次町）
4. 雲南市（三刀屋町）
5. 雲南市（吉田町）
6. 雲南市（掛合町）
7. 奥出雲町（旧仁多町）
8. 奥出雲町（旧横田町）
9. 飯南町（旧頓原町）
10. 飯南町（旧赤来町）

問2 あなたの現在の居所についてお聞きします。（○は1つ）

1. 自宅（賃貸住宅を含む）
2. 施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、グループホーム、その他各種福祉施設等）
3. 病院、診療所
4. その他（ ）

問3 あなたの現在の受診の状況についてお聞きします。（○は1つ）

1. 病院、診療所への定期的な通院はしていない（風邪等で体調が悪い時のみ受診する）
2. 在宅等（自宅のほか問2の2の施設を含む）から病院、診療所に定期的に通院している
3. 在宅等（自宅のほか問2の2の施設を含む）で往診・訪問診療を受けている
4. 病院、診療所に入院している
5. その他（ ）

### II 在宅医療・介護について

問4 夜間や休日などにあなたが自宅で急に具合が悪くなった時やケガをした場合（医療機関での受診が必要だと思うが、何とか自力で医療機関に行ける程度の場合）、まずどの医療機関を利用（または連絡を）しますか。（○は1つ）

1. お住まいの市町内にある休日在宅当番医または休日（夜間）診療所
2. お住まいの市町内にある救急告示病院\*の救急外来
3. 他の市町の休日在宅当番医または休日（夜間）診療所
4. 他の市町の救急告示病院の救急外来
5. かかりつけ医
6. 救急車を呼ぶ
7. 決めていない
8. その他（ ）

\*近隣の主な救急告示病院

【県内】松江市立病院、松江赤十字病院、松江記念病院、松江生協病院、玉造病院、安来市立病院、日立記念病院、町立奥出雲病院、雲南市立病院、平成記念病院、飯南病院、島根大学医学部附属病院、県立中央病院、出雲市民病院、出雲市立総合医療センター、出雲徳洲会病院

【県外】鳥取大学医学部附属病院（鳥取）、市立三次中央病院（広島）

裏面もあります☞

問5 あなたは、「緩和ケア\*」という言葉をご存知ですか。(○は1つ)

1. 「緩和ケア」の意味を十分知っている
2. よく知らないが聞いたことはある
3. 知らなかった

\*緩和ケア…がんなどの疾患を抱える患者とその家族に対して病院や自宅での療養に際し、疾患の早期から並行して、身体症状の緩和や精神心理的な問題、社会的問題への援助など、療養生活の質の向上を図る行為を言います。雲南圏域においても各病院で受けることができます。

問6 あなたは、自分が治る見込みがなく人生の最期が迫っている(6カ月程度あるいはそれより短い期間を想定)と告げられた場合、最期はどこで療養生活を送りたいと思いますか。(○は1つ) ※家族の負担及び経済的な負担等は考えずにお答えください。

1. なるべく早く今まで通った(又は現在入院中の)医療機関に入院したい
2. 自宅で療養して、必要になれば今まで通った(又は現在入院中の)医療機関に入院したい
3. 自宅で療養して、必要になれば緩和ケアを受けられる医療機関に入院したい
4. 自宅で最期まで療養したい
5. 専門的医療機関(がんセンターなど)で積極的に治療を受けたい
6. 老人ホームなどの施設に入所したい
7. その他( )
8. わからない

問7 雲南圏域においても以下のような在宅医療・介護サービスを受けることができますがご存知ですか。(各項目についてそれぞれ該当する数字を1つずつ選んで○で囲んでください。)

	内容もどこで受けられるかも知っている。	内容は知っているがどこで受けられるかは知らない。	聞いたことはあるがよく知らない。	全く知らない。
ア 訪問診療(医師の訪問)	4	3	2	1
イ 訪問看護(看護師などの訪問)	4	3	2	1
ウ 訪問リハビリテーション(リハビリ専門職の訪問)	4	3	2	1
エ 訪問薬剤管理指導(薬剤師の訪問)	4	3	2	1
オ 訪問歯科診療(歯科医師の訪問)	4	3	2	1
カ 訪問介護(ホームヘルパーの訪問)	4	3	2	1
キ デイサービス(施設における日帰りサービス)	4	3	2	1
ク ショートステイ(短期的な施設入所)	4	3	2	1
ケ デイケア(施設における通所リハ)	4	3	2	1

雲南圏域における「在宅医療・介護」に関するご意見がございましたら、お聞かせください。

<自由記入欄>

お手数ですが、記入漏れがないか再度ご確認のうえ、《在宅医療・介護に関するアンケート調査》の用紙と併せて同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、9月16日(金)までにお送りください。

《調査にご協力いただきありがとうございました。》